

信濃毎日新聞社
信毎セミナー例会
於：上田市ささや

その先の日本国へ

安全保障・政治・経済のここが変！

2003.1.21
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きた思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 冷戦にいたる、戦争と安全保障の歴史

1) 国家と戦争

- ・国家：税金を集めて事業を行なう団体 事業～軍事、外交、公共サービス
- ・戦争：国家間の武力による紛争解決 戦争は新しい現実(正統性)を作り出す

2) 近代国家の戦争メカニズム 戦争には戦争目的がある

- ・武力独占 軍隊/警察の分離 軍政(陸軍省)/軍令(参謀本部)の分離 文民統制
- ・政略→戦略→戦術 クラゲビツ『戦争論』…1)敵軍殲滅 2)領土占領 3)意志をくじく
- ・戦時国際法 戦争は合法的な行為である ←→テロリスト、ゲリラ

軍隊の要件 ①指揮系統②制服③明確な武器の携行④国際法の遵守(民間人保護)

3) 20世紀は、戦争の世紀

- ・持久戦(日露戦争(1904)→第一次大戦) 機関銃(防御に適する)+縦深陣地
⇒敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス(生物・化学兵器)・飛行機
- ・総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし
- ・冷戦：核の均衡 相互確証破壊(防衛ミサイル禁止=A BM条約)
核の傘～日米安保体制(日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権)
アメリカの軍事費はGDPの7%、ソ連20%、日本1% ⇒戦後日本の繁栄

□2□ 9・11は世界を変えたか?

1) ポスト冷戦期(1989～2001)：9・11以後への転換期

- ・冷戦の集結 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学兵器)の拡散
- ・湾岸戦争：イラクの侵略に対する原状回復 安保理の制裁決議+多国籍軍
- ・94年朝鮮半島危機 ⇒ 日米安保再定義、新ガイドライン(周辺事態法) 有事法制

2) 9・11テロは世界を変えた

- ・9・11テロ 軍事革命(RMA)：麻痺戦 敵主力を破壊せず無能化～同時多発攻撃
- ・「新しい戦争」 テロ(&テロ支援国家) vs 主権国家連合 正規軍で反撃
- ・テロ特別措置法 日米安保条約(片務性)から逸脱 ∴米の個別自衛権へ協力

3) 対イラク攻撃と新しい国際秩序

- ・イラク攻撃=予防戦争 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
- ・フセイン政権打倒～保障占領～民主化実現 すなわち 内政干渉 ×民族自決
- ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず～政府の正統性のため
対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない

4) 9・11以後の市民社会の変質

- ・市民こそ危険 市民が国家を監視(近代憲法の大原則)⇒国家が市民を監視
- ・監視は自由を制限 ⇒国家にどの程度の監視を委託するか、市民が選択

□3□ 日本の民主主義は、ここがおかしい

1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)

- ・派閥党内力学<国民の人気 解散・新党カード→もう無理か?
- ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧

2) 政権交替が起らない

- ・小選挙区制への抵抗(公明党、共産党) →比例区、死票を嫌う、固定的投票行動
- ・野党の分裂と政策形成能力の不足 官庁は与党に情報と政策プランを提供
政策コミュニティ(policy community)の不在 政府～議会～シンクタンク～大学～企業

3) 明確な長期ビジョンを掲げよう

- ・新しい公共性：ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた派生体
- ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」～金・言葉の公共性

□4□ 日本の資本主義は、ここがおかしい

1) 個人株主(資本家)が存在しない

- ・個人株主50%(戦後すぐ)→法人株主(相互持ち合い)が増え続ける/配当が低い
- ・株主不在の株主総会 ⇒持株会社復活、ベンチャー企業育成、投資優遇制の導入を

2) 会社は共同体である

- ・年次別管理 年功賃金(定期昇給) サービス残業 経営者の個人財産担保
- ・入り口文化から、労働移動の自由確立を インターンシップ/年俸制/転職の自由

3) なぜ不良債権処理が進まないか

- ・土地を担保に融資、株券を保有 ⇒過剰流動性・バブルの発生/不良債権の雪ダルマ
- ・竹中改革：経営陣総退陣+公的資金の強制注入(国有化)+ゾンビ企業倒産
(韓国モデル：銀行国有化と経営陣辞職、財閥整理⇒V字回復)←銀行+自民党の反対

4) 改革のガンはどこか

- ・財政投融资(原資～郵貯・年金)…市場のチェックを受けず政策的投資を行なう
⇒無駄な道路の建設と赤字、政府自治体の有利子負債の累積 ⇒資金供給を圧迫
- ・1400兆円の預貯金と企業債務証券をスワップしてはどうか ×債権買取機構
- ・明確な改革のプランと世界戦略が、日本の経済危機を救う
例) 大学改革 バイリンガル/ボスドク/年俸制/学費値上げと奨学金/民営化…

東工大×朝日カル
チャーセンター提
携講座@W933

北朝鮮徹底分析

～こんなに困った北朝鮮～

2003.2.1
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ ビデオでみる北朝鮮

- 『金日成のパレード』監督：アンジェイ・フィディック(1988年ポーランド)
- テープ1……高速道路を歩く人びと。リュックを背負っている。草がいっぱい。
テープ2……南浦の馬鹿ダム。時間があれば、柳京ホテルと、中学校？の武術体操
テープ3……帰路の列車に現れた飢えたおじさん(やせこけた娘を連れていた)
- 『インサイド・ノースコリア——北朝鮮、飢餓の実像』c1998 RENK

□2□ 北朝鮮経済はなぜがたがたになったか

- 1) ポスト冷戦・ソ連の崩壊が北朝鮮を孤立させた
 - ・北朝鮮の戦略的重要性 → 石油・食糧の援助(原子炉はNPT加盟と引き換え)
 - ・ソ連崩壊 → 石油の輸入途絶 → 輸送の壊滅 → 北朝鮮工業の崩壊(産業連関論)
 - ・中国・ロシアの韓国承認 → 北朝鮮は核開発に邁進 → 94年半島危機 → 再び危機？
- 2) 「主体」農業の惨状
 - ・集団化の徹底 cf 中国は革命の主体が農民(土地私有を認め、のちに集団化)
 - ・主体農法 家族労働の廃止～キャンペーン農業 コメ&トウモロコシ(→水害)
 - ・水害、肥料不足、運送力の不足 → 慢性的凶作と飢餓 → 配給の廃止と自由価格化
- 3) 北朝鮮にもはや工業は存在しない
 - ・産業連関論(投入産出分析 Input-Output Analysis): 各産業の相互関係を線型近似
産業連関行列の逆行列を求めないと、計画経済は実行できない → 資材ためこみ
 - ・電力不足 → 電圧低下 → 精密加工は不可能
 - ・速度戦方式 → 資材浪費・計画はかえって達成不可能 → 金親子の特別指示に頼る
 - ・四つの経済: 政府の経済/軍の経済/党の経済/闇経済 軍に資源・人員を集中

□3□ 金正日の権力はどのように維持されているか

- 1) 金日成神話: 救国の英雄、抗日戦争勝利の将軍～実はソ連の傀儡? 政権の正統性?

- ・反対派の粛清とイデオロギー教育、歴史改竄が、労働党政権に本質的 cf 中国共産党
- ・金正日は、父・金日成の絶対化で自らを正統化(世襲) → 天皇制との類似
→ 深刻な後継問題 金正男?? 無数の暗殺・クーデターの試み

2) 朝鮮労働党・組織指導部

- ・大安(てあん)の活動体系: 工場長+党秘書に、各代表を加えた工場党委員会が指導
⇒ 党秘書の権限が突出 ⇒ それを(組織指導部→)党中央委員会が指揮・統制

3) 軍の組織

- ・武力独占 軍隊/警察の分離 軍政(陸軍省)/軍令(参謀本部)の分離 文民統制
- ・赤軍の原則 司令+政治委員(党が軍を支配) 軍事委員会の指揮権～国家主権
- ・人民武力部(三軍)/護衛総局/国家安全保衛部(秘密警察)/社会安全部(警察)
/労働赤衛隊・赤い青年近衛隊・教導隊(党の民兵) 反乱防止が主眼

4) 国民をがんじがらめに監視するシステム

- ・成分: 核心階層/動揺階層/敵対階層(国民の約半分)と、三階層51成分に分類
- ・密告・告発の奨励 相互監視システム 国民の移動を制限 食糧統制(配給)
- ・政治犯収容所: 12箇所20万人 革命化区域(復帰の可能性あり)/完全統制区域

□4□ ポスト冷戦下の北朝鮮

1) 拉致事件の背景

- ・軍事停戦: 戦争状態の継続 ソウル「火の海」～国境から50キロ、火砲の射程内
→ 駐韓米軍、米の核抑止力 → 工作による陰謀(光州事件、ラザン事件、文世光事件)
- ・日本語教師の必要性 cf 80年代末、中国の主要都市でも潜伏した北の工作員を逮捕
「拉致」は明確な国際法違反(→本来なら戦争) 「強制連行」とは相殺できない

2) 94年危機

- ・冷戦崩壊を受け、日本に接近 → 金丸訪朝団(三党が補償を明言) → 金丸失脚
- ・北が原爆(数発)を開発 → アメリカの警告 → 北のNPT脱退 → 枠組み合意
- ・北の経済的困窮 → 南の「太陽政策」 → 北のミサイル開発、工作船、武器輸出

3) アルカイダ危機

- ・9・11で、MDより対テロ戦争が政策優先課題に → 北=テロ支援国家 → 北の危機感
→ 日本に接近(拉致を認める) → 日本の反撥 → 核開発を認めアメリカと交渉
- ・北と戦争の選択肢なし(リスク大) 北～現体制維持/米～核開発放棄を → 膠着

□5□ 朝鮮半島問題と日本の将来

1) 北朝鮮はいつまで存続できるか

- ・韓国で反米反日の高まり～北同胞論 核におびえる日本はいい気味 中国も黙認
- ・日本の政策優先順位は、拉致より核 日米韓の共同歩調が必要 → だが韓国が脱落?
- ・米韓同盟破棄・在韓米軍引き揚げ 米の核の傘は頼れるか 自衛隊の反撃能力?

2) 統一コリアは

- ・南北はいずれ統一 → アメリカ、日本との相対的距離(+核武装) → 中国寄りに
- ・大国中国+統一コリア → 日本の国論分裂(アメリカをとるか、中国をとるか)
→ 日米同盟の再定義(中国を牽制したいアメリカと日本の利害が一致) ×核武装
- ・中国が歴史問題を強調 → 日本をこの構図に追いやる → 賢明ならいずれやめる
(かつての北方四島と同じで、アメリカが中国・韓国をたきつけている可能性も)

3) グローバル化のなかでの東アジア

- ・統一後、北の復興支援に日本が出る幕はない 韓国・中国の反対 → 中国が主役?
- ・グローバル化のなかで日本の孤立 かつて韓国・中国の独立を犯したツケ
- ・共通の脅威(たとえばロシア)の消失 → 地域主導権をめぐる紛争が続発する

青年海外協力隊
平成14年三次隊
派遣前訓練講義

異文化理解と適応

世界の宗教と日本人

2003. 2. 5
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書、近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

1) 宗教の定義は、むずかしい

- ・「宗教」「仏教」「儒教」は明治の造語 死後の世界? 神? 霊魂?
- ・橋爪の定義: 宗教「日常生活のなかで自明でない前提のもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
- ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなものである ×優れているから普及する
- ユダヤ教〜神教V1.0 キリスト教〜同V2.0 イスラム教〜同V3.0 Happy Holidays

3) 宗教は生活に密着している

- ・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
- ・日本人の宗教嫌い・偏見は、江戸時代、明治時代の政府の政策のせい

□2□ ユダヤ教をどう理解すればいいか

1) 一神教 monotheism ↔ 多神教 polytheism

- ・宗教=神との契約=法律 都市国家〜民族抗争 ⇒ 祭祀同盟・帝国 ⇒ 一神教
- ・ヤーウェ: 戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 救済: ユダヤ民族を支配民族に
- ・モーセ五書(トラー): 創世記、出エジプト記、申命記、レビ記、民数記

2) ユダヤ法(律法)は神への義務

- ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、ミルク&肉はだめ、…) ⇒ 結婚規制
- ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜) 信仰の可視化
- ・割礼 ハナカ(過越の祭) ミシュナ(トラーの注釈)/タルムード(そのまた注釈)

3) 預言者とラビの伝統

- ・預言者〜神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) イザヤ、エリヤ、ナタン…
- ・パリサイ人〜聖書の律法に忠実な平信徒 教育を重視(シナゴグ)
- ・ラビ〜世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動 ユダヤ社会の核

□3□ キリスト教をどう理解すればいいか

1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか

- ・長老会議の判決(瀆神の罪)→総督ピラトの執行(十字架: 奴隷を処罰する方法)
- ・パウロの学説 イエスは神のひとり子・救世主(メシア=キリスト)で、人間の罪を背負い犠牲となった ⇒ 人間は罪のあるまま救われる 同害報復説/血の贖い説

2) 旧約(ふるい契約=ユダヤ教)/新約(新しい契約=キリスト教) ⇒ BC/AD

- ・キリスト教の聖書『旧約』『新約』 イザヤ書の予言(メシア)が成就したと考える
- ・救済: 地上の国でない「神の国」に入る 新たに肉体を与えられる、性別なし
- ・公会議: 司教の集まり(最高決定機関) 学説(三位一体説など)を教義に決定
- ・キリスト教がローマ国教に 教会(法律を守る/信仰を守る) 皇帝 ⇒ 政教分離

3) 教会の分裂

- ・東方教会(リブ正教)〜ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)〜ローマ教皇
- ・宗教改革 プロテスタント ルターが免罪符の販売に抗議、ローマ教皇の権威を否定
- ・英国国教会(アングリカン・チャーチ)、カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、メソジスト、バプティスト、… 〜マリア崇拜、聖職者、偶像崇拜を否定
- ・反宗教改革 イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

1) ムハンマドは、教祖ではない

- ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
- ヒジュラ(聖遷=メッカ脱出)→バドルの勝利→メッカ入城→イスラム帝国の拡大
- ・カリフ(神の使徒の代理人): ムスリム共同体(ウンマ)の統治者 → シーア派分離

2) イスラム法は、合理的なシステム

- ・法源: クルアーン/スンナ/イジュマー/キヤース 上位の法源が優先
- ・スンナ: ムハンマドの言動についての伝承(ハディース) 信用性についての検証
- ・イジュマー: 法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
- ・キヤース: 三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法

3) ムスリムの生活

- ・イスラム法の遵守 イスラム法は超民族的な性格をもつ 礼拝/巡礼/食物規制
- ・救済: 地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福論) 聖戦(ジハード)で殉死→天国
- ・西欧化(資本主義経済、民主主義)の困難 → イスラム復興運動 「原理主義」

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

1) 日本人は仏教を誤解している

- ・仏教…哲学的合理主義〜世界の実在を否定 ×自己 ×霊魂 ×先祖崇拜 ×葬儀
- ・本地垂迹説: 仏陀⇔神々 法華経の本仏思想がヒント 神と仏は区別されず
- ・浄土真宗〜念仏 日蓮宗〜題目 禅宗〜不立文字 いずれも経典を読まない
- ・切支丹弾圧 → 宗門人別帳 → 仏壇・位牌・葬式仏教

2) 日本人は儒教を誤解している

- ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会(年長者絶対)+官僚制(君主絶対)
- 日本の律令制 → すぐ骨抜き(荘園制) → 武士の台頭(反官僚制) → 江戸儒学?
- ・日本的儒学 忠孝一如(父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒ 天皇制、日本株式会社

3) 日本人は神道を誤解している

- ・垂加神道(山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神々の祭祀 儒教と神道を合体
- ・平田神道(平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 → 霊は現世に実在(英霊)
- キリスト教の影響があると言われている

4) 宗教に関する無知と誤解

- ・宗教について習わない → 何も知らない → 誤解と軽蔑
- ・宗教を信じるのは、「弱いもの」だと思われている 宗教なしで済ませられる
- ・宗教がわかれば、世界がみえる!

グローバル世界の幸福



□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……東工大大学院・社会理工学研究科・価値システム専攻教授
(社会学)。著書に、『世界がわかる宗教社会学入門』、
『こんなに困った北朝鮮』、『その先の日本国へ』、『幸福のつくりかた』など。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/> hashizm@valdes.titech.ac.jp

□1□ グローバル世界とは何か

- 1) グローバル世界：モノ・人・情報（資本や技術）の移動によって、地球上のすべての人びとがますます緊密に結びつくようになった世界
 - ・近代国民国家が一応の単位だが、企業、自治体、NGO、国際機関が多層的に重層
- 2) グローバル世界の人びとは、どういう関係を取り結ぶか
 - 友好的関係 貿易（比較生産費説→貿易による利益）、援助、文化的影響、…
 - 敵対的関係 交流の断絶、威嚇、戦争（武力による破壊行為により意図を実現）
 - ・軍隊：戦争を行なうための国家機関 戦争は国家の安全保障上の権利とされる
 - ・外交：友好的関係と敵対的関係を組み合わせて、国際秩序を作り出そうとする努力
- 3) グローバル世界の秩序形成
 - ・ポスト冷戦 自由主義／共産主義の固定的枠組が消滅 →地球規模の市場経済
 - ・グローバル化 →「世界標準」の形成 英語／メガ競争／構造改革／……
 - ・アメリカ極化 安全保障（核不拡散） テロ支援国家への先制攻撃を正当化

□2□ グローバル世界の幸福とは何か

- 1) 自由貿易は、幸福を保証するか
 - 一般均衡理論：自由競争はパレート最適を実現
 - ヘクシャー＝オリーンの定理：自由貿易は要素価格均等を実現
 - 初期手持ち量、生産技術の問題は未解決
 - ・経済格差が縮まる見込みがない場合、「絶望」が支配する ⇒テロリズム？
- 2) 地球環境の制約は、幸福を不可能にするか
 - ・持続可能な発展…不可能 ∵将来世代の可能性を奪わない→再生不能資源は使えない
 - ・現在世代vs将来世代…幸福のトレードオフ 存在しない将来世代を誰が代表する？
 - 研究開発～将来世代への正の贈与（技術） 資源消費～同じく負の贈与
 - ・炭素税…地球環境への負荷を公正に分担する仕組み 先進国が一律に賦課すべき
- 3) 経済格差の是正措置は、どこまで正当化されるか
 - ・国民国家…人間の移動を阻止する仕組み 所有権の正当化…既得権を維持する仕組み
 - もしも人間が自由に移動すれば、幸福追求機会の平等はすみやかに実現できる
 - ・ODA・経済援助：市場経済の外部で、国家間の資源移転を行なう試み（補完的）
 - 人口抑止に対する報奨を、援助（ex炭素税の配分）にどこまで反映させるべきか
 - ・資源価格↑×人口↑×情報価格↓⇒格差は拡がり先進国の繁栄が鼻先に⇒

□3□ グローバル世界の幸福のために、どう行動すべきか

- 1) 日本的ライフスタイルの提言
 - ・「省資源型国家戦略の提言」…研究プラン アメリカ文明に代わる代替文明の提案
 - ・都市集中／集合住宅／植物蛋白／公共輸送機関／省資源／…
- 2) 人口増加に歯止めをかける途上国支援
 - ・教育水準の向上 識字率支援 教員養成／学校建設／輸送インフラ／教材…
 - ・所得の向上 失業対策 地場産業振興／農業振興／保護貿易／計画的移民／…

「慰安婦」問題を考えるということ

橋爪大三郎（東京工業大学）

□1 歴史のむずかしさ

- ・歴史（過去の出来事）は、歴史を歴史として語ること（現在のわれわれの行為）とともにある。（「客観的な事実」が単純に一義的に存在するわけではない）
- ・「慰安婦」問題は、歴史を語る新しい語り方（関わり方）の一環だった。いま、その語り方そのものが、歴史の一部となろうとしている。

□2 「慰安婦」問題のむずかしさ

- ・まったく重要と考えられなかったことが、「問題」として発見された。
戦後日本社会の、モラルの変化
アジア諸国のナショナリズムの高揚
冷戦の解体による国際情勢の変化
- ・人道的視点（「慰安婦」の人びとに何かしなければ）と、歴史的・政治的・道義的視点（謝罪すべき／誠意を示すべき／恥じ入るべき）との交錯

□3 補償のむずかしさ

- ・「慰安婦」の人びとに個人補償をするには、相手国政府の協力が必要 ⇒相手国の政治問題に
- ・国が関与してはならず／関与せねばならず 寄附→基金→償い金／経費支出＋手紙
- ・補償を受け取ることの苦痛とリスク

□4 「慰安婦」問題を考えることのむずかしさ

- ・“悪者”を批判することはあまりに容易 ⇒だが、批判するあなたは誰？
- ・アジア女性基金を評価することのむずかしさ フェミニズム踏み絵・論
- ・「慰安婦」問題からなにを汲み取るかのむずかしさ

世界の宗教と日本(人)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道德・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなものである ×優れているから普及する
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
 - ・日本人の宗教嫌い・偏見は、江戸時代、明治時代の政府の政策のせい

□2□ ユダヤ教をどう理解すればいいか

- 1) 一神教 monotheism ↔ 多神教 polytheism
 - ・宗教=神との契約=法律 都市国家~民族抗争 ⇒ 祭祀同盟・帝国 ⇒ 一神教
 - ・ヤーウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 救済：ユダヤ民族を支配民族に
- 2) ユダヤ法(律法)は神への義務
 - ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、ミルク&肉はだめ、…) ⇒ 結婚規制
 - ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜) 信仰の可視化
- 3) 預言者とラビの伝統
 - ・預言者~神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) イザヤ、エリヤ、ナタン…
 - ・パリサイ人~聖書の律法に忠実な平信徒 教育を重視(シナゴーグ)
 - ・ラビ~世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動 ユダヤ社会の核

□3□ キリスト教をどう理解すればいいか

- 1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか
 - ・パウロの学説 イエスは神のひとり子・救世主(メシア=キリスト)で、人間の罪を背負い犠牲となった ⇒ 人間は罪のあるまま救われる 同害報復説/血の贖い説
- 2) 旧約(ふるい契約=ユダヤ教)/新約(新しい契約=キリスト教) ⇒ BC/AD
 - ・キリスト教の聖書『旧約』『新約』 イザヤ書の予言(メシア)が成就したと考える
 - ・救済：地上の国でない「神の国」に入る 新たに肉体を与えられる、性別なし
 - ・キリスト教がローマ国教に 教会(法律を守る/信仰を守る) 皇帝 ⇒ 政教分離
- 3) 教会の分裂
 - ・東方教会(判別正教)~ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)~ローマ教皇
 - ・宗教改革 プロテスタント ルターが免罪符の販売に抗議、ローマ教皇の権威を否定
 - ・英国国教会、カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
 - ・反宗教改革 イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

- 1) ムハンマドは、教祖ではない
 - ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
 - ・カリフ(神の使徒の代理人)：ムスリム共同体(ウンマ)の統治者 → シア派分離
- 2) イスラム法は、合理的なシステム
 - ・法源：クルアーン/スンナ/イジュマ/キヤース 上位の法源が優先
 - ・スンナ：ムハンマドの言動についての伝承(ハディース) 信用性についての検証
 - ・イジュマ：法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
 - ・キヤース：三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法
- 3) ムスリムの生活
 - ・イスラム法の遵守 イスラム法は超民族的な性格をもつ 礼拝/巡礼/食物規制
 - ・救済：地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福論) 聖戦(ジハード)で殉死→天国
 - ・西欧化(資本主義経済、民主主義)の困難 → イスラム復興運動 「原理主義」

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

- 1) 日本人は仏教を誤解している
 - ・仏教…哲学的合理主義~世界の実在を否定 ×自己 ×靈魂 ×先祖崇拝 ×葬儀
 - ・本地垂迹説：仏陀の神々 法華経の本仏思想がヒント 神と仏は区別されず
 - ・切支丹弾圧 → 宗門人別帳 → 仏壇・位牌・葬式仏教
- 2) 日本人は儒教を誤解している
 - ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会(年長者絶対)+官僚制(君主絶対)
 - ・日本的儒学 忠孝一如(父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒ 天皇制、日本株式会社
- 3) 日本人は神道を誤解している
 - ・垂加神道(山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神々の祭祀 儒教と神道を合体
 - ・平田神道(平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 → 霊は現世に実在(英霊)
- 4) 宗教に関する無知と誤解
 - ・宗教を信じるのは、「弱いもの」だと思われている 宗教なしで済ませられる
 - ・宗教がわかれば、世界がみえる!

信濃毎日新聞社
信毎セミナー例会
於：諏訪市 めのほ

その先の日本国へ

安全保障・政治・経済のここが変！

2003.6.24
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 冷戦とはなんだったか

- 1) 20世紀は、戦争の世紀
 - ・総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし
 - cf 持久戦(日露戦争(1904)→第一次大戦) 機関銃(防御に適する)+縦深陣地
 - ⇒敵正面の突破・迂回が困難に →戦車・毒ガス(生物・化学兵器)・飛行機
 - ・冷戦：核の均衡 相互確証破壊(MAD)(防衛ミサイル禁止=ABM条約)
 - 核の傘～日米安保体制(日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権)
 - アメリカの軍事費はGDPの7%、ソ連20%、日本1% ⇒戦後日本の繁栄
- 2) ポスト冷戦期(1989～2001)：9・11以後への過渡期
 - ・冷戦の集結 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学兵器)の拡散
 - ・湾岸戦争：イラクの侵略に対する原状回復 安保理の制裁決議+多国籍軍
 - ・94年朝鮮半島危機 ⇒ 日米安保再定義、新ガイドライン(周辺事態法) 有事法制

□2□ 9・11は世界を変えた

- 1) 9・11テロは世界を変えた
 - ・9・11テロ 軍事革命(RMA)：麻痺戦 敵主力を破壊せず無能力化～同時多発攻撃
 - ・「新しい戦争」 テロ(&テロ支援国家) vs 主権国家連合 正規軍で反撃
 - ・テロ特別措置法 日米安保条約(片務性)から逸脱 ∴米の個別自衛権へ協力
 - ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず～政府の正統性のため
 - 対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない
- 2) 対イラク攻撃と新しい国際秩序
 - ・イラク攻撃=予防戦争 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
 - ・フセイン政権打倒～保障占領～民主化実現 すなわち 内政干渉 ×民族自決

3) チャイナ・リスク

- ・SARS……危機の本質：資本・情報・人の移動が、文化や制度の異なる国と緊密に結ばれてしまっていること。 グローバリゼーションの帰結
- 4) 9・11以後の市民社会の変質
 - ・市民こそ危険 市民が国家を監視(近代憲法の大原則)⇒国家が市民を監視
 - ・監視は自由を制限 ⇒国家にどの程度の監視を委託するか、市民が選択

□3□ 日本の民主主義は、ここがおかしい

- 1) 小泉政権の教訓 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(！)
 - ・派閥党内力学<国民的人気 解散・新党カード→もう無理か？
 - ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧
- 2) 政権交替が起こらない(擬似改革政権の10年)
 - ・小選挙区制への抵抗(公明党、共産党) →比例区、死票を嫌う、固定的投票行動
 - ・野党の分裂と政策形成能力の不足 官庁は与党に情報と政策プランを提供
 - 政策コミュニティ(policy community)の不在 政府～議会～シタカ～大学～企業
- 3) 目的合理的にすべての組織をたて直そう (組織防衛的な行動～守旧派)
 - ・新しい公共性：ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた代理人
 - ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」～金・言葉の公共性

□4□ 日本の資本主義は、ここがおかしい

- 1) 個人株主(資本家)が存在しない
 - ・個人株主50%(戦後すぐ)→法人株主(相互持ち合い)が増え続ける/配当が低い
 - ・株主不在の株主総会 ⇒持株会社復活、ベンチャー企業育成、投資優遇制の導入を
- 2) 会社は共同体である
 - ・年次別管理 年功賃金(定期昇給) サービス残業 経営者の個人財産担保
 - ・入り口文化から、労働移動の自由確立を インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 3) なぜ不良債権処理が進まないか
 - ・土地を担保に融資、株券を保有 ⇒過剰流動性・バブルの発生/不良債権の雪ダルマ
 - ・デフレ・スパイラル 従来型景気対策は無効 資本流出+ゾンビ企業延命
- 4) 折り返し点をはっきりさせよう
 - ・財政投融资(原資～郵貯・年金)…市場のチェックを受けず政策的投資を行なう
 - ⇒無駄な道路の建設と赤字、政府自治体の有利子負債の累積 ⇒資金供給を圧迫
 - ・1400兆円の預貯金と企業債務証券をスワップしてはどうか ×債権買取機構
 - ・明確な改革のプランと世界戦略が、日本の経済危機を救う ×組織疲労
 - 例) 大学改革 バイリンガル/ポストク/年俸制/学費値上げと奨学金/民営化…

□参考文献□

- 保阪正康 2003『吉田茂という逆説』 中公文庫
胡 鞍鋼 2003『かくて中国はアメリカを追い抜く——胡錦濤・温家宝体制の戦略』(解説=橋爪大三郎) PHP研究所

洗足学園高校進路
ガイダンス講演会
於：洗足学園高校

私たちはどのような世界に生きていくのか

2003.6.25
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』（勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『選択・責任・連帯の教育改革』（共著・勁草書房）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『正義・戦争・国家論』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』（PHP新書）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ なぜ戦争がおこるのか

- 1) 戦争を起こすのは、国家。では、国家がないほうがいいかと言うと…
 - ・国家は 税金をとる。
かわりに、公共サービス（軍事、外交、警察、裁判、福祉、…）を提供。
 - ・国家は、武力を独占する ⇒ 法律で、国民の生命・財産を守ることができる
法律の前では、誰もが平等。弱くても、正しい者が、守られる。
 - ・国家がなくては、人権を守ることができない。自由に生きていくこともできない。
- 2) 国家は、戦争を起こす権利がある
 - ・第九条「戦争の放棄」 放棄するくらいだから、もともと戦争を起こす権利があった
 - ・政府は、その国の人びとの幸福を守る義務がある
外国が戦争を仕掛けてきたら、自衛のために応戦する（自衛戦争）
そのことを、外国にとやかく言われない（国家主権 sovereignty）
 - ・なぜいくつも国家があるのか 大きくまとまると、不便だから／損だから
- 3) 平和とは… 戦争が起こらない状態のこと
 - ・戦争には、お金がかかる。戦争に勝とうと思うと、もっとお金がかかる。
 - ・戦争に勝つと、相手に、自分の意思を押しつけることができる。
 - ・冷戦が終わって、アメリカ一国が強くなり、アメリカと戦争する国はなくなった。
 - ・テロリストは、お金をかけないで、戦争に勝ったと同じ結果をえようとする。

□2□ なぜ人びとは宗教を信じるのか

- 1) 宗教は、はまると怖い、ふつうじゃない人の信じるもの??
 - ・日本人の、宗教に対する偏見は、政府の政策のせい
歴代中国政府の政策 江戸幕府の政策（切支丹、一向宗） 明治政府の政策
 - ・世界では、ごくふつうの人びとが、ふつうに信仰をもっている
宗教がわからないと、世界がわからない！
- 2) 一神教について、何を知っていますか?
 - ・ユダヤ教、キリスト教、イスラム教 それぞれの神さまは? なぜ仲が悪い?
 - ・人間は死んだらどうなるのか
 - ・神に救われるかどうか、どうすればわかる?
- 3) キリスト教が、西欧文明を生み出した
 - ・政教分離 ⇒ 議会政治、民主主義
 - ・自然科学 魔術や占いは禁止
 - ・資本主義 救われているつもりで働く（禁欲）

□3□ この社会の仕組みは、どうなっているのか

- 1) 自由
 - ・自分のことは自分で決めること
就職～職業選択の自由 結婚～配偶者選択の自由 信教、言論、プライバシー
 - ・自分も選ぶが、相手も選ぶ ⇒ 競争
Th 結婚平等の定理
Th 恋愛不平等の定理
 - ・30代独身男性が増えている 子どもを生まない女性が増えている
- 2) 市場経済
 - ・高所得を望むなら、労働力に付加価値をつけよう
資格 医師、弁護士、公認会計士、税理士、弁理士、…
 - ・なんでも一番でなくても、仕事はみつかる
比較優位(comparative advantage) 大統領とタイピスト
 - ・嫌なときでもやるのが仕事
でも、好きなことが仕事にできれば、幸せ

□4□ 大学は、あなたに何を約束してくれるのか

- 1) 大学では、「大きく」学ぼう
 - ・高校まで……普通教育 わからない部分がないように
大学……専門教育 得意なところを伸ばすように
 - ・大学はもともと国際機関 英語で授業は当たり前 外国人は当たり前
 - ・大学はコストがかかる 国立 180万円/年 私立 128万円/年
アメリカの一流大学は3万5千ドル(400万円)
元を取ろうと、必死で勉強
 - 2) 大学を出てからの目標を持とう
 - ・ロースクール（法科大学院） ←学部では何を学んでもいい
 - ・ビジネス ←英語、経済、法律、……は役立つ
 - ・バイオ、情報 ←女性に有利
 - ・英語 ←語学だけでなく、なにか専門を
 - ・留学 ←学位をとろう 奨学金は?
 - ・幅広い教養 ←マスコミ情報は役に立たない
 - 3) 世界を担うリーダーとして
 - ・ものごとを「理解」できる能力
それには、古典をたくさん読みましょう
 - ・ものごとを「説明」できる能力
それには、友人とさまざまな話題を話し合いましょう
 - ・ものごとを「解決」できる能力
それには、目的と手段をはっきり意識しましょう
- 自分を他人と比べないで
むやみに悲観しないで
あなただけの、あなたのための、場所が必ず用意されている
弱音を吐かないで、勇気を出して、できるところまでやってみる
自分のやるべきことに集中する
きっと未来は開けるはず

富士通経営研修所 日本人はいま 2003.7.15
 8級昇級者研修 何を考えればいいのか 橋爪大三郎
 於：小杉ワークス ~~XX~~ (東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
 著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『法と個人』(PHP新書・近刊)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 公共性とは何か

- 1) 公共 the public ……ふつうのおじさん、おばさんが大勢集まった状態(=公衆)
 - ・公共は、家族でも共同体でもない 必ずしも親密ではない人びと(=社会)
 - ・公共は、言葉のやりとり、契約や制度、委託や代理や説明責任を大事にする
- 2) 政府 government ……公共から委託されて、公共サービスを行なう代理人 agent
 - ・政府が「公共的」なのは、公衆から委託を受けているから
 - ・政府は、公衆に対して、説明責任を追う 公衆は政府に、納税・兵役の義務を負う
- 3) 国家 ……人びと(国民)が自分たちの政府を戴いた状態
 - ・ナショナリズム ……人びと(国民)が自分たちの国家を肯定する運動
 - ・ナショナリズムが、民族や文化や伝統を誇る場合には、排外主義となる
 - ・アメリカの「自由」：個々人が多様であることを保障する、国家の理念
 - ・民主主義 ……人びと(国民)が政府をコントロールしている状態

□2□ 日本の公共性はなぜ脆弱なのか

- 1) 尊皇攘夷と明治維新
 - ・新政府の政権は、国民の自由のためではなく、共同体的な排外主義の産物
 - ・国家=教会 国家なのに、世俗の機関ではなく、宗教的要素を含む 教育勅語(天皇が道徳の規準) 軍人勅諭~皇道派 玉碎~特攻隊
- 2) 民主主義の未成熟
 - ・三権分立のはずが、行政府(官僚)の優位 政権交替が起こらない
 - ・日本人は、民主主義を「みんな仲良く」「話せばわかる」(=共同体原理)と勘違い
 - ・意思決定を回避~少数派になることへの恐れ コンセンサス(全員一致)が好まれる
- 3) 目的合理的思考が欠落
 - ・カルロス・ゴーンの衝撃 ポリシーペーパー ミッション・ステートメント

・委託/代理、の認識が不十分 株主を冷遇 グローバル競争にそなえよ

□3□ 9・11は世界を変えたか?

- 1) 9・11テロは世界を変えた
 - ・「新しい戦争」 テロ(&テロ支援国家) vs 主権国家連合 正規軍で反撃
 - ・テロ特別措置法 日米安保条約(片務性)から逸脱 ∴米の個別自衛権へ協力
- 2) 対イラク攻撃と新しい国際秩序
 - ・イラク攻撃=予防戦争 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
 - ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず~政府の正統性のため 対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない
- 3) 安全保障と日本の選択
 - ・アメリカの一極支配を支持することが、日本の国益 北朝鮮の核の脅威
 - ・憲法改正を視野に 通常戦力が国外で行動できること：自衛隊→国防軍

□4□ 政治の混迷を、どう立て直すか

- 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)
 - ・派閥党内力学<国民の人気 解散・新党カード→もう無理か?
 - ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧
- 2) 政権交替が起こらない
 - ・野党の分裂と政策形成能力の不足 官庁は与党に情報と政策プランを提供
 - ・政策コミュニティ(policy community)の不在 政府~議会~シンクタンク~大学~企業
- 3) 明確な長期ビジョンを掲げよう
 - ・新しい公共性：ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた派生体
 - ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」~金・言葉の公共性

□5□ 日本の資本主義は、ここがおかしい

- 1) 個人株主(資本家)が存在しない
 - ・個人株主50%(戦後すぐ)→法人株主(相互持ち合い)が増え続ける/配当が低い
 - ・株主不在の株主総会 ⇨持株会社復活、ベンチャー企業育成、投資優遇制の導入を
- 2) 会社は、共同体から、目的合理的組織へ
 - ・年次別管理 年功賃金(定期昇給) サービス残業 経営者の個人財産担保
 - ・入り口文化から、労働移動の自由確立を インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 3) 改革のガンはどこか
 - ・財政投融资(原資~郵貯・年金)…市場のチェックを受けず政策的投資を行なう ⇨無駄な道路の建設と赤字、政府自治体の有利子負債の累積 ⇨資金供給を圧迫
 - ・1400兆円の預貯金と企業債務証券をスワップしてはどうか ×債権買取機構
 - ・明確な改革のプランと世界戦略が、日本の経済危機を救う
 例) 大学改革 バイリンガル/ポストク/年俸制/学費値上げと奨学金/民営化…

東工大〜朝日カ
ンセンター提携講座
於：西9号館933

戦争の社会学

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

2003. 8. 5&6
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『9・11テロ以後の国家と社会(仮題)』(共著・径書房・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ はじめに：なぜ戦争を考えるのか

1) 戦争は学問的に扱われてこなかった

- ・戦後のパシフィズム……戦争に関係することは何でも忌避
- ・戦前は軍国主義だったか 大学に講座なし 軍事教練を軽蔑 軍の悪評 国会無能力
- ・戦争は、人類と共にある社会現象 戦争について考えられない「アノミー」克服を

2) 戦争の何が問題になるのか

- ・戦争は無秩序ではない 交戦のルール 戦争の法則性(技術+心理)
- ・社会=Σコミュニケーション +性――暴力―― +贈与――交換――戦争――
- ・共同体/共同体、都市国家/都市国家、国家/国家は、戦争の可能性をはらむ

3) 共同体の戦争

- ・共同体のメンバー全員が武装して参加……祭礼に類似 食人俗(カニバリズム)
- ・人口圧力を軽減するため戦争が常態化している場合 例) 太平洋諸島の場合
- ・農業→生産性の向上と社会階層分解→戦士階級(狭義の戦争の始まり)

□2□ 神々の争い——古代の戦争(人類はどのように戦争をしてきたのか)

1) 武器・兵器の発展による戦争の歴史

- ・石器…石斧(棒に石の刃先を結びつける)、石鏃(弓矢)、投石器 城壁
- ・青銅器…剣、斧、鏃、甲冑 銅と錫は稀少金属で高価なため戦士は貴族階級に 車輪の発明→戦車：馬が曳く二輪車に弓をもった戦士と馭者 →歩兵に脅威
- ・鉄器…剣、鏃、槍、甲冑 鉄は安価なため戦士は平民層に拡大 騎兵(馬の騎乗ははじめ困難だった) 鎧の発明→槍の使用、重武装が可能に
- ・弩砲(カタパルト) 前4世紀に普及、甲冑を射抜く 大型：20kgの石を300m飛ばす

2) 編制、戦術面からみた戦争の発展

- ・歩兵(剣、盾、槍、投げ槍、弓) 戦車 騎兵 投石機 攻城塔・破城槌

- ・古代ギリシャの戦術…装甲歩兵密集方阵：何列かの横隊を組んだ槍隊による突進
ホプロン(装甲の楯)、甲冑 騎兵、散兵による側面からの攻撃に弱い
スパルタ：師団～4大隊(大隊は100名からなる) 大隊=2中隊=4小队
- ・マケドニアの戦術…マケドニア密集軍：長槍・楯・兜・胴甲 敵隊列を寄せつけない
「槌と金床」戦法：騎兵や軽装備歩兵が機動的に動き敵を密集軍の前面に追い込む
←古代ペルシャ：各兵種の統合軍 10000人隊～1000人隊～100人隊～10人隊

3) 古代の海戦

- ・三槳(さんばう) 漕船：漕ぎ手が三人一組で坐るガレー船 11.5ノット 衝角で敵を突く
作戦①縦列を組んで敵の船列を突破する、②敵の船団を包囲する

□3□ 血縁と地縁——中世の戦争

1) 封建制

- ・森林の農耕 →家族労働が主体に →分権的な武装領主 →土地を媒介に集団形成
- ・領土の継承～血縁関係を基礎にする 安全保障～土地を有力者に寄進し契約を結ぶ

2) 領主…騎馬で武装 従者を従える

- ・一騎打ち 名誉をかけた戦い ←弩弓、鉄砲の登場により相対的に意味を失う
- ・封建領主の力は弱化し、都市や国王の権力が増大

3) 絶対王政

- ・常備軍：傭兵を主体に編成 補給の重視～参謀 大砲～要塞の攻撃に用いる
マスケット銃を装備した歩兵、槍兵、騎兵、砲兵・砲兵将校 重砲を装備した軍艦
- ・師団 division の成立(1788) 師団(司令官・参謀)/連隊/大隊/中隊/小队
- ・横隊～戦闘隊形 一斉掃射→銃剣による突撃 野砲はたいいてい会戦に間に合わない

□4□ 近代国家と戦争——近代の戦争

1) 国家と戦争

- ・国家：税金を集めて事業を行なう団体 事業～軍事、外交、公共サービス
- ・戦争：国家間の武力による紛争解決 軍人は任務として戦争(破壊と殺傷)に従事
軍隊は、武器を携行/指揮系統あり/標識あり 近代軍は、戦時法規に従う
- ・国家は、実力を独占する 国家の内部に武力紛争はなく、法の支配が貫徹する

2) 戦争のメカニズム 戦争には戦争目的がある

- ・政略→戦略→戦術 クラウゼビッツ『戦争論』…1)敵軍殲滅 2)領土占領 3)意志をくじく
- ・補給はなぜ大切か ∵傭兵 会戦平面～横隊～傭兵(自己武装でない)～補給
軍政/軍令の分離 戦闘序列の決定 参謀本部の成立 職業軍人(勲章→転職)

3) 安全保障

- ・戦争と外交とは連続的である 戦争は、相手に自国の意思を押しつける最終手段
- ・戦争は新しい現実(正統性)を作り出す 紛争：異なる現実認識の競合
- ・平和…戦争の結果を人びとが承認し、現状維持に利益を見いだすこと
- ・安全保障：自衛や集団的自衛(軍事同盟)によって戦争を抑止し、戦争に備える努力

□5□ 戦争の技術と産業

1) フランス革命とナポレオン戦争

- ・ナポレオンの戦術改革 徴兵(戦闘意欲向上、兵力向上)→消耗戦・殲滅戦へ
横列→縦列 すみやかな移動と戦力の集中 十字砲火

(学) 鉄鋼学園
人材開発センター
管理者セミナー

日本の明日を考える

2003. 8. 28
於: NKK経営研修所
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローク)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書・近刊)ほか

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 9・11は世界を変えたか?

1) テロは絶対の悪か?

- ・人殺しのスペクトル 事故/正当防衛/戦争/死刑執行/自殺/殺人/無差別殺人
テロは、無差別に不特定多数の人びとを殺すことを目的とする(中立を認めない)
- ・国際テロ テロ実行犯←国際テロ組織←テロ支援国家 ⇄ 自衛権の発動(国際法)

2) テロは、安全保障の枠組みを変えた?

- ・冷戦 核兵器の均衡=相互確証破壊(核の傘) 正規軍vs正規軍 総力戦の一種
- ・ポスト冷戦 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学)の増大
⇒主権国家の連合(国民の相互監視)によって阻止

3) アフガン戦争とテロ特別措置法

- ・日米安保条約(片務性→専守防衛)からの逸脱 アメリカの個別自衛権への協力
- ・集団的自衛権(軍事同盟)→第9条&憲法に抵触 ⇒憲法改正?

□2□ 小泉内閣で日本は変わるか?

1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強—自民党支持30%強=無党派50%(!)

- ・派閥党内力学<国民の人気 解散・新党カード→そろそろ錆びつき?

2) 小泉内閣で「改革」は進むのか

- ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいかわらず
- ・“小泉以外の誰が首相になっても同じ”(猪瀬)と腹を決め、改革について勉強を

3) 明確な長期ビジョンを掲げよう

- ・新しい公共性: ふつうの大人たちが実体 政府・自治体は、委任を受けた派生体
- ・田中康夫・長野県知事 「脱ダム宣言」「脱記者クラブ宣言」→金・言葉の公共性

□3□ 21世紀は、どんな世界になるのか

1) 科学技術は地球を救うか?

- ・IT革命→情報コストの劇的低下(ブロードバンド) →組織、国家の輪郭が曖昧に
- ・地球環境制約の深刻化 気候変動→炭素税→熱縮 エネルギー価格高騰
- ・人口爆発&農地の拡大困難 →食糧不足 →食料価格高騰(第三世界の不満増)
- ・⇒情報価格↓×資源価格↑(資源/情報ギャップの拡大) 国際社会の緊張増大

2) 先進国の動向

- ・アメリカ→唯一超大国としての軍事的優位 but経済力の長期低落 →多角的バランス
2020年のGNP予測 中国→アメリカ→インド→日本→…… 世界の中心はアジアへ
- ・EU→国家の壁を越える共同体 統一の通貨・制度 →ロシア、イスラムの排除

3) 中国・東アジアの動向

- ・統一コリアの誕生? 南北会談で、統一を共通目標として確認→7千万国家の登場
- ・中国の将来体制? 社会主義/市場経済の矛盾 台湾問題 中国vsアメリカ
cf日米ガイドライン 日本の「周辺事態」に対応 台湾が入るか「曖昧」政策

4) 第三世界の動向

- ・権利としての経済発展⇄環境制約 先進国エゴを糾弾する世界思想or世界宗教
- ・イスラム圏 西欧文明に対する抵抗者として登場するか cfイランの憲法体制

□4□ 21世紀、日本は復活できるか

1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視

- ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
- ・国際分業のなかに活路を見出す 日本市場→世界市場 企業行動の世界標準化

2) 政治の改革 ~意思決定力の強化

- ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
- ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 人事異動の促進
- ・地方自治の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

3) 企業社会の改革 ~経済体質の強化

- ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い⇄株主不在/累進課税/資産課税
⇒持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
- ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由

4) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を

- ・小中学校: 学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
- ・高校: 入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
- ・大学: 入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開

5) 東アジア国家としての再出発

- ・公民権制度を導入 →在日外国人を日本社会の正規メンバーに →統一コリアに対応
- ・歴史と向き合う国民 学生交流、民間対話、史跡訪問、芸術作品助成、……

6) 明瞭な世界戦略とメッセージを

- ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
- ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

- ・秣・食糧は現地調達～地元の反感 モスクワでは補給を断たれる／ロシア軍は水路
- ・歩兵 師団(作戦単位)～連隊～大隊(横列戦闘単位)～中隊～小队～班
- 歩兵は、1) 敵の殲滅、2) 領土の占領、3) 民間人の保護、を行なう

2) プロイセン陸軍と参謀本部

- ・グナイゼナウ、シャルンホルストの軍制改革 参謀本部：作戦の立案と発令
- ・参謀総長モルトケの作戦指導 → 普墺戦争、普仏戦争での勝利 全国民の兵役義務

3) 兵器の進化

- ・マスケット銃 → ライフル銃・ミニエー弾丸(1849) → アメリカ式大量生産
- ・青銅鑄造砲 → マリッツの穿孔砲(18世紀半ば) → グリボーヴァルの野砲～照準付で軽量(1776) → アームストロング砲(1859)：中子の周りに可鍛鉄を巻き付け砲身を成形～軽量で強力 → 発射薬の改良(燃焼率が均一)・ニトロセルロース火薬(1879)
- ・戦艦(17世紀)：全天候型帆船+重砲+砲車 → 新戦艦(1837)：榴弾砲+装甲板 → 蒸気機関搭載(1850) → 後装施条砲(c1860) → 砲塔(1880) → 蒸気タービン(1884)：36ノットの駆逐艦 → 戦艦ドレッドノート：21ノット、12インチ砲(1906)

□6□ 近代日本の戦争

1) 幕末～維新の戦争

- ・ナショナリズムと国防意識の高まり 阿片戦争の教訓 軍事顧問や代理戦争の回避
- ・伝統と革新のミックス…尊皇攘夷思想 天皇の軍事指揮権→国民軍の創出 ×身分
- ・明治政府…軍事クーデターでありながら、文官が政府を構成 陸海軍創設
- ・征韓論(ナポレオン戦争のアジア版を志向)→西南戦争(藩閥から国民へ) → 帝大

2) 富国強兵路線の成功

- ・日清戦争…外交・政略の主導する近代戦 賠償金→産業投資 → 三国干渉
- ・日露戦争…日英同盟(1902)～欧州パワーゲームの一環 国際ルールの厳守 持久戦
- ・第一次世界大戦…戦略目標の喪失期 漁夫の利 国際社会の変化を理解できず

3) 満州事変から大東亜戦争へ

- ・精神主義、作戦至上主義 ← 軍隊の官僚制化 歪んだ統帥権論争 戦略の分裂
 - ・《三十三 …国家の戦争目的を体し、必要に応じ政略上の要求を考慮すること肝要なるも、…みだりに政略上の利便に随従することなく、必要があれば毅然として当面の政略を超越し、断乎として独立不羈の作戦を敢行して戦勝を獲得し、もって大局における政略目的の達成に貢献する気概なかるべからず。》「統帥参考」1932
 - ・石原莞爾 河本大佐の張作霖(フセインに類似)爆殺事件を教訓に、満州事変を演出 シナリオ…対口戦争に備え満州国建設、中国の好意的中立を期待→中国侵略に反対
 - ・武藤章 満州事変を教訓に、日華事変を拡大し、親日政権(干渉地帯)を樹立
 - ・大東亜戦争 アメリカの門戸開放原則に抵触→英米の対中支援→事変の泥沼化→対日経済封鎖→対米戦争不可避、資源獲得のため南進路線に転換→米の日本挑発→真珠湾
 - ・一貫した外交方針がなく、戦争目的が曖昧だった 政略麻痺、戦略不在、作戦優先
- ⇒戦争に対するリテラシーのいちじるしい欠如 共同体マインドの猛威

□7□ 冷戦とはなんだったか

1) 20世紀は、戦争の世紀

- ・持久戦(日露戦争(1904)→第一次大戦) 機関銃(防御に適する)+縦深陣地
- ⇒敵正面の突破・迂回が困難に → 戦車・毒ガス(生物・化学兵器)・飛行機

- ・総力戦：戦争目的を第一に国家・社会全体が組織される態勢 前線/後方の別なし
- ・大艦巨砲主義(アウトレンジ戦法)→機動部隊(航空戦力の優位) シーレーン防衛
- ・石原莞爾の予言～最終兵器の登場は戦争を不可能にする ⇒核兵器と冷戦
- cf 総力戦研究所……昭和15年に内閣府に設けられ、日米戦必敗を予測 ←猪瀬1983

2) 冷戦は、もうひとつの総力戦である

- ・冷戦：核の均衡 相互確証破壊(MAD) (防衛ミサイル禁止=A BM条約)
- ・核の傘(恐怖の均衡) ～日米安保体制(日本の個別自衛権+アメリカの集団自衛権)
- アメリカの軍事費はGDPの7%、ソ連20%、日本1% ⇒戦後日本の繁栄
- ・核拡散防止条約(NPT) 核大国のパワーを保証 cf核・WMDは安価な戦力
- ・通常戦力による侵攻は不可能に ⇒ゲリラ戦(ベトナム戦争、アフガン戦争)
- ・ヨーロッパの反核運動…中距離核にアメリカが反撃してくれるか疑問 cf北朝鮮

□8□ ポスト冷戦の安全保障

1) MD(ミサイル・ディフェンス)構想

- ・SDI(スターウォーズ計画)：レーガンの軍拡→ゴルバチョフのペレストロイカ
- ・NMD(アメリカ本土を核攻撃から防衛)
- TMD(戦域[日本や台湾]を核攻撃から防衛) 前方展開の必要からMDに合体

2) 日米「集団安全保障」へ

- ・94年朝鮮半島危機 ⇒ 日米安保再定義、新ガイドライン(周辺事態法) 有事法制
- 新ガイドライン 「周辺事態」：そのまま放置すると日本の安全を脅かすおそれのある北朝鮮を想定→中国も 周辺地域での事態 (地理的概念ではない)

3) 9・11「同時多発テロ」事件以後の国際秩序

- ・軍事革命(RMA)……消耗戦から麻痺戦へ 敵主力を破壊せず無能化～コンピュータ制御の弱点～同時多発的に精密・適時の攻撃～前線/後方、軍事/民間の差異消滅
- ・テロ&テロ支援国家 vs 主権国家連合 テロに対して戦争で対抗
- ・テロをなぜ憎むのか 日本人は殺さない/殺すの違いのみ重視(生命大切論)。
- キリスト教文明は、過失/正当防衛/戦争・処刑/殺人/虐殺&テロ、の順に区別より害悪の大きい殺人を排除するため、害悪の小さい殺人を犯すのは正義と考える
- 戦後日本人は、戦争を最大の悪と考えてきたが、その想定は成り立たないのでは？
- ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず～政府の正統性のため
- 対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない

4) アメリカ単独行動主義(unilateralism)と日本

- ・アフガン戦争…アメリカの個別自衛権の行使 +日本の後方支援(テロ特別措置法)
- アメリカの自衛権を日本が支援する～日米安保の枠をはみ出している
- ・イラク攻撃=予防戦争 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
- フセイン政権打倒～保障占領～民主化実現 すなわち 内政干渉 ×民族自決
- アメリカの予防戦争 +日本の事後支援(イラク立法)～ますます逸脱

□9□ 戦争をめぐる倫理の問題

- 1) 公共性：人びとが対等に交流する空間の属性 言論/契約/法/宗教/…
- ・国家は公共性を代表する(たとえば税をとる)が、公共性の基盤は個人にある
- ・個々人は、自分の存立の基盤である公共性を、応分に守る責務がある ⇒倫理

- 2) 戦争：個々人が公共性のために自分を危険にさらす究極のかたち cf警察・消防
- ・戦争は国際社会のルール 正規軍は他の団体が真似できないほどの装備をもつべき
 - ・リアリズム……軍事バランスは、国際秩序の不可欠の一部 安全保障への配慮
 - ・個人～社会～国家～戦争の関係を見通し、理解し、適切に行うこと＝倫理(?)
- 3) 戦争の死者の問題：戦前～戦後の連続性 ←『敗戦後論』『天皇の戦争責任』
- ・加藤典洋の提起 300万の死者／2000万の死者 まず 300万を哀悼すべき
 - 大東亜戦争の死者を、なぜ、どのように哀悼するか 祀る主体～国民
 - ・戦争を支えたことは間違っていたのか？ →いない ∴公民としての義務＝兵役
- 4) 靖国神社
- ・東京招魂社(明2)→靖国神社：国事殉難者(維新の犠牲者)の霊を恒久的に合祀
 - 陸軍・海軍・内務三省の所管する国家機関 ←政府見解：神道は宗教にあらず
 - ・GHQ指令により宗教法人(国と無関係)に →国が犠牲者に哀悼する方法なし
- 5) 東京裁判
- ・法源…戦時国際法(B、C級)+人道に対する罪、平和に対する罪(A級)：事後法
 - ・南京大虐殺(atrocity)の問題性 立証の方法 戦場で民間人保護義務を怠る
 - ・サンフランシスコ平和条約の裁判承認義務 vs 東京裁判の不正への異議申し立て
- 6) PKO法
- ・自衛官の武器携行を制限 →人権侵害、国際常識に逸脱
 - ・人びとを守るために危険に身をさらして任務につくのは、倫理的な行為ではないのか

□10□ 21世紀日本の安全保障を考える

- 1) 21世紀の安全保障は、日米安保体制の枠をはみ出している
- ・憲法改正(自衛隊を軍にする) 自衛隊～法的には警察 軍～禁止された以外は可
- 2) 北朝鮮の脅威にどう対応するか
- ・冷戦時代、核技術を手に入れようとして断られる→冷戦が終結、ソ連の原油供給停止、核の傘もなくなる→自衛のため核開発、経済破綻→94年半島危機→枠組み合意(核開発停止≒KEDO)→テポドン発射実験・核開発再開→平壤宣言→6ヶ国協議→?
 - ・テポドン3を開発した北朝鮮が、日本に核兵器を使用した場合、アメリカが核で報復するか疑問(かつての欧州と同じ不安)→日本も核武装? →日本が核を持っても北の先制使用は防げない? 核武装論争(中西輝政～核武装vs櫻田淳～巡航ミサイル)
 - ・9.11後、金正日政権の存続は許容できない→暗殺/政変/崩壊/戦争のどのシナリオにせよ、近い将来、北朝鮮問題は「解決」する、日本も準備を→田中均審議官問題
- 3) 中国とどのように対応するか
- ・中国国情分析 経済…2010年にアメリカを追い抜く/人口…60%を超える農民/軍事…急速に拡大(台湾侵攻がやがて可能に)/政治…共産党は社会主義政党に脱皮?
 - ・台湾問題 武力統一に抗しアメリカ軍を支援(周辺事態法)～この原則を堅持すべき
 - ・中国に対して明確な戦略をもつべき 例)一党支配体制を民主的な体制に転換させる
 - ・アメリカのプレゼンスを長引かせる+中国を市場経済に巻き込む →中国の脅威削減
- 4) アメリカとどのようにつきあうか
- ・アメリカの覇権は50年不変→日本がアメリカにとって、価値ある国であり続けるよう中国の台頭と国際社会の不安定化～日本はそれをバランスさせる役割を担う
 - ・同時に、アメリカに変わる文明モデルを提出すべし…「省資源型国家戦略」→米牽制 京都議定書～炭素税 日本はEUと組んで支持すべし 対米構造改革要求

□参考文献□

- Clausewitz, K.von 1832-34 Vom Kriege 森鷗外訳『大戦學理』、→1974『鷗外全集』34、岩波書店(2001 清水多吉訳『戦争論(上)(下)』中公文庫)
- Dannigan, James F. 1993 How To Make War, William Morrow and Co.
- de Jomini, Antoine Henri 1838 Precis de l'art de Guerre =1996 The Art of War, Greenhill Books. (2001佐藤徳太郎訳『戦争概論』、中公文庫)
- Dupuy, Trevor N. 1984 The Evolution of Weapons and Warfare, Hero Books. →1990 Da Cota Press.
- Ferrill, Arther 1985 The Origins of War, Thames and Hudson. =1988 鈴木主悦・石原正毅訳『戦争の起源——石器時代からアレクサンドロスにいたる戦争の古代史』、河出書房新社
- Hart, B.H.Liddell 1954 Strategy, 1967 second revised edition →1991 Meridian
- 胡 鞍鋼 2001『中国戦略構想』浙江人民出版社。=2003 石平訳『かくて中国はアメリカを追い抜く——胡錦濤・温家宝体制の戦略』(解説=橋爪大三郎)、PHP研究所
- 猪瀬直樹 1983『昭和16年夏の敗戦』、世界文化社 →2002『日本人はなぜ戦争をしたのか——昭和16年夏の敗戦』(猪瀬直樹著作集8巻：解説=橋爪大三郎)、小学館
- Irie, Akira 1987 The Origin of the Second World War in Asia and Pacific, Longman =1991 藤原初枝訳『太平洋戦争の起源』、東京大学出版会
- 石原莞爾 1940『最終戦争論』立命館出版部 →2001『最終戦争論』中公文庫
- 加藤典洋・橋爪大三郎・竹田青嗣 2000『天皇の戦争責任』、径書房
- 小室直樹 1981『新戦争論——“平和主義者”が戦争を起こす』、光文社
- 小室直樹・色摩力夫 1993『国民のための戦争と平和の法』、総合法令
- McNeill, William H. 1982 The Pursuit of Power: Technology, Armed Force and Society since A.D. 1000, University of Chicago Press. =2002 高橋均訳『戦争の世界史——技術と軍隊と社会』、刀水書房。
- 中村好寿 2001『軍事革命(RMA)——<情報>が戦争を変える』中公新書
- 大江志乃夫 1985『日本の参謀本部』、中公新書
- 大橋武夫解説 1972『統帥綱領』、建帛社
- 田原総一郎 2000『日本の戦争』、小学館
- 田原総一郎編 2001『日本はなぜ負ける戦争をしたのか』、アスキー
- 渡辺昇一 1974『ドイツ参謀本部』、中公新書 →1997 クレスト社
- Weber, Max 1917-1919 Das antike Judentum =1996 内田芳明訳『古代ユダヤ教(上)(中)(下)』、岩波文庫
- 山本七平 1976『下級将校のみた陸軍』、朝日新聞社→1997『ある異常体験者の偏見』(山本七平ライブラリー7)、文藝春秋
- 吉本隆明 2002『超「戦争論」(上)(下)』、アスキーコミュニケーションズ

・成績認定システムの弾力化 学校外教育、ボランティア、インターン、他学校、……

青年海外協力隊
平成15年2次隊
派遣前訓練講義

異文化理解と適応

世界の宗教と日本（人）

2003.9.24
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』（以上、勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『強いサラリーマン、へたばる企業』（共著、廣済堂出版）、『寛容のレシピ』（グラスビー著、解説・NTT出版）、『政治の教室』（PHP新書）、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』（共著・朝日新聞社）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『人間にとって法とは何か』（PHP新書）ほか。
<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなものである ×優れているから普及する
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒10億＋ムスリム10億＋ヒンドゥー教徒10億＋儒教徒10億＋…
 - ・日本人の宗教嫌い・偏見は、江戸時代、明治時代の政府の政策のせい

□2□ ユダヤ教をどう理解すればいいか

- 1) 一神教 monotheism ↔ 多神教 polytheism
 - ・宗教＝神との契約＝法律 都市国家～民族抗争 ⇒ 祭祀同盟・帝国 ⇒ 一神教
 - ・ヤハウェ：戦争神／創造神 神は主／人間は奴隷 救済：ユダヤ民族を支配民族に
- 2) ユダヤ法（律法）は神への義務
 - ・食物規制（血は飲まない、鱗のない魚はだめ、ミルク＆肉はだめ、…）⇒ 結婚規制
 - ・安息日（ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜） 信仰の可視化
- 3) 預言者とラビの伝統
 - ・預言者～神の声を聞き王と人民に警告（知識人の原型） イザヤ、エリヤ、ナタン…
 - ・パリサイ人～聖書の律法に忠実な平信徒 教育を重視（シナゴーグ）
 - ・ラビ～世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動 ユダヤ社会の核

□3□ キリスト教をどう理解すればいいか

- 1) イエス＝キリストを信じると、なぜ救われるのか
 - ・パウロの学説 イエスは神のひとり子・救世主（メシア＝キリスト）で、人間の罪を背負い犠牲となった ⇒ 人間は罪のあるまま救われる 同害報復説／血の贖い説
- 2) 旧約（ふるい契約＝ユダヤ教）／新約（新しい契約＝キリスト教） ⇒ BC／AD
 - ・キリスト教の聖書『旧新約』 イザヤ書の予言（メシア）が成就したと考える
 - ・救済：地上の国でない「神の国」に入る 新たに肉体を与えられる、性別なし
 - ・キリスト教がローマ国教に 教会（法律を守る／信仰を守る）皇帝 ⇒ 政教分離
- 3) 教会の分裂
 - ・東方教会（カトリック）～ビザンチン総主教／西方教会（ローマカトリック）～ローマ教皇
 - ・宗教改革 プロテスタント ルターが免罪符の販売に抗議、ローマ教皇の権威を否定
 - ・英国国教会、カルヴァン派（⇒ 清教徒）、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
 - ・反宗教改革 イエズス会（強固な軍隊的組織と献身）

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

- 1) ムハンマドは、教主ではない
 - ・ムハンマド＝最大で最後の預言者（神の使徒）『クルアーン』の啓示を受ける
 - ・カリフ（神の使徒の代理人）：ムスリム共同体（ウンマ）の統治者 → シア派分離
- 2) イスラム法は、合理的なシステム
 - ・法源：クルアーン／スンナ／イジュマ／キヤース 上位の法源が優先
 - ・スンナ：ムハンマドの言動についての伝承（ハディース） 信用性についての検証
 - ・イジュマ：法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
 - ・キヤース：三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法
- 3) ムスリムの生活
 - ・イスラム法の遵守 イスラム法は超民族的な性格をもつ 礼拝／巡礼／食物規制
 - ・救済：地上の幸福／来世の幸福（二重の幸福論） 聖戦（ジハード）で殉死⇒天国
 - ・西欧化（資本主義経済、民主主義）の困難 → イスラム復興運動 「原理主義」

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

- 1) 日本人は仏教を誤解している
 - ・仏教…哲学的合理主義～世界の実在を否定 ×自己 ×靈魂 ×先祖崇拜 ×葬儀
 - ・本地垂迹説：仏陀の神々 法華経の本仏思想がヒント 神と仏は区別されず
 - ・切支丹弾圧 → 宗門人別帳 → 仏壇・位牌・葬式仏教
- 2) 日本人は儒教を誤解している
 - ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会（年長者絶対）＋官僚制（君主絶対）
 - ・日本的儒学 忠孝一如（父に仕えるごとく主君に仕えよ）⇒ 天皇制、日本株式会社
- 3) 日本人は神道を誤解している
 - ・垂加神道（山崎闇斎が唱えた） 儒教の君主＝天皇＝神々の祭祀 儒教と神道を合体
 - ・平田神道（平田篤胤が唱えた） 死の穢れを否定 → 霊は現世に実在（英霊）
- 4) 宗教に関する無知と誤解
 - ・宗教を信じるのは、「弱いもの」だと思われている 宗教なしで済ませられる
 - ・宗教がわかれば、世界がみえる！

富士通経営研修所
於：小杉ターナリス

日本人はいま
何を考えればいいのか

2003.9.25
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きたる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 9・11は世界を変えたか？

1) テロは絶対の悪か？

- ・人殺しのスペクトル 事故/正当防衛/戦争/死刑執行/自殺/殺人/無差別殺人
テロは、無差別に不特定多数の人びとを殺すことを目的とする(中立を認めない)
- ・国際テロ テロ実行犯←国際テロ組織←テロ支援国家 ⇄ 自衛権の発動(国際法)
- ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず→政府の正統性のため
対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない

2) テロは、安全保障の枠組みを変えた？

- ・冷戦 核兵器の均衡=相互確証破壊(核の傘) 正規軍vs正規軍 総力戦の一種
- ・ポスト冷戦 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学)の増大
⇒主権国家の連合(国民の相互監視)によって阻止

3) アフガン戦争とテロ特別措置法

- ・日米安保条約(片務性→専守防衛)からの逸脱 アメリカの個別自衛権への協力
- ・集団的自衛権(軍事同盟)→第9条&憲法に抵触 ⇒憲法改正？

4) イラク戦争と北朝鮮

- ・予防戦争(大量破壊兵器) 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
- ・六カ国協議 北の核開発は阻止できない 体制転覆は可能か

□2□ 日本の公共性はなぜ脆弱なのか

- 1) 公共 the public ……ふつうのおじさん、おばさんが大勢集まった状態(=公衆)
 - ・政府 government ……公共から委託されて、公共サービスをこなす代理人 agent
 - ・民主主義 ……人びと(国民)が政府をコントロールしている状態

2) 尊皇攘夷と明治維新

- ・新政府の政権は、国民の自由のためではなく、共同体的な排外主義の産物

- ・国家=教会 教育勅語(天皇が道德の規準) 軍人勅諭→皇道派 玉碎→特攻隊
- ### 3) 民主主義の未成熟
- ・三権分立のはずが、行政府(官僚)の優位 政権交替が起こらない
 - ・意思決定を回避→少数派になることへの恐れ コンセンサス(全員一致)が好まれる
 - ・目的合理的思考が脆弱 ポリシーペーパー ミッション・ステートメント

□3□ 政治の混迷を、どう立て直すか

- 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(！)
 - ・派閥党内力学<国民的人気
 - ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧
- 2) 小選挙区制が、政治を変えつつある
 - ・中選挙区→派閥の戦い ⇄ 小選挙区→党の戦い 党の顔が欲しい：小泉、安倍
 - ・マニフェスト(与党/野党の政策パッケージ) 数値目標 自民党vs新民主党
- 3) 政治の改革 ~意思決定力の強化
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 政治任用の促進
 - ・地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

□4□ 21世紀は、どんな世界になるのか

1) 科学技術は地球を救うか？

- ・IT革命→情報コストの劇的低下(ブロードバンド) ⇄情報価格↓
- ・地球環境制約の深刻化 気候変動→炭素税→熱縮 ⇄資源価格↑ 資源/情報
- ・人口爆発&農地の拡大困難 →食糧不足 ⇄食料価格↑ ギャップ拡大

2) 各国の動向

- ・2020年のGNP予測 中国→アメリカ→インド→日本→…… 世界の中心はアジアへ
- ・EU→国家の壁を越える共同体 統一の通貨・制度 →ロシア、イスラムの排除
- ・統一コリアの誕生？ 7000万国家の登場 ・中国vsアメリカ→緊張

□5□ 21世紀、日本は復活できるか

- 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視
 - ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
 - ・国際分業のなかに活路を 絶対優位/比較優位 企業行動の世界標準化
- 2) 企業社会の改革 ~経済体質の強化
 - ・戦後社会は、資本主義でなかった！ 配当が低い⇄株主不在/累進課税/資産課税
⇄持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
 - ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 3) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を
 - ・小中学校：学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
 - ・高校：入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
 - ・大学：入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開
- 4) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

富士通経営研修所 日本人はいま 2003.10.17
 2003年度第2回 何を考えればいいのか 橋爪大三郎
 9級昇級者研修 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX (東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書・近刊)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 9・11は世界を変えたか?

- 1) テロは絶対の悪か?
 - ・人殺しのスペクトル 事故/正当防衛/戦争/死刑執行/自殺/殺人/無差別殺人
 - テロは、無差別に不特定多数の人びとを殺すことを目的とする(中立を認めない)
 - ・国際テロ テロ実行犯←国際テロ組織←テロ支援国家 ⇄ 自衛権の発動(国際法)
 - ・モスクワ劇場事件 テロリストとは交渉せず、脅しに屈せず→政府の正統性のため
 - 対テロ原則を貫くなら、武力解決のたび人質全滅を覚悟すべき テロはなくせない
- 2) テロは、安全保障の枠組みを変えた?
 - ・冷戦 核兵器の均衡=相互確証破壊(核の傘) 正規軍vs正規軍 総力戦の一種
 - ・ポスト冷戦 核の脅威の消滅 テロの脅威(核・生物・化学)の増大
 - ⇒主権国家の連合(国民の相互監視)によって阻止
- 3) アフガン戦争とテロ特別措置法
 - ・日米安保条約(片務性→専守防衛)からの逸脱 アメリカの個別自衛権への協力
 - ・集団的自衛権(軍事同盟)→第9条&憲法に抵触 ⇒憲法改正?
- 4) イラク戦争と北朝鮮
 - ・予防戦争(大量破壊兵器) 戦争(先制攻撃)を不法行為とする国際法の変更
 - ・六カ国協議 北の核開発は阻止できない 体制転覆は可能か

□2□ 日本の公共性はなぜ脆弱なのか

- 1) 公共 the public ……ふつうのおじさん、おばさんが大勢集まった状態(=公衆)
 - ・政府 government ……公共から委託されて、公共サービスを行なう代理人 agent
 - ・民主主義 ……人びと(国民)が政府をコントロールしている状態
- 2) 尊皇攘夷と明治維新
 - ・新政府の政権は、国民の自由のためではなく、共同体的な排外主義の産物

- ・国家=教会 教育勅語(天皇が道德の規準) 軍人勅諭→皇道派 玉碎→特攻隊
- 3) 民主主義の未成熟
 - ・三権分立のはずが、行政府(官僚)の優位 政権交替なし 憲法は何のため?
 - ・意思決定を回避→少数派になることへの恐れ コンセンサス(全員一致)が好まれる
 - ・目的合理的思考が脆弱 ポリシーペーパー ミッション・ステートメント

□3□ 政治の混迷を、どう立て直すか

- 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)
 - ・派閥党内力学<国民の人気
 - ・「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧
- 2) 小選挙区制が、政治を変えつつある
 - ・中選挙区→派閥の戦い ⇄ 小選挙区→党の戦い 党の顔が欲しい:小泉、安倍
 - ・マニフェスト(与党/野党の政策パッケージ) 数値目標 自民党vs新民主党
- 3) 政治の改革 ~意思決定力の強化
 - ・国会の機能強化 次点歳費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 政治任用の促進
 - ・地方自治の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

□4□ 21世紀は、どんな世界になるのか

- 1) 科学技術は地球を救うか?
 - ・IT革命→情報コストの劇的低下(ブロードバンド) ⇄情報価格↓
 - ・地球環境制約の深刻化 気候変動→炭素税→熱縮 ⇄資源価格↑ 資源/情報
 - ・人口爆発&農地の拡大困難 →食糧不足 ⇄食料価格↑ ギャップ拡大
- 2) 各国の動向
 - ・2020年のGDP予測 中国→アメリカ→インド→日本→…… 世界の中心はアジアへ
 - ・EU→国家の壁を越える共同体 統一の通貨・制度 →ロシア、イスラムの排除
 - ・統一コリア(7000万国家)誕生? ・中国vsアメリカ cf宇宙開発の成功

□5□ 21世紀、日本は復活できるか

- 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視
 - ・「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
 - ・国際分業のなかに活路を 絶対優位/比較優位 企業行動の世界標準化
- 2) 企業社会の改革 ~経済体質の強化
 - ・戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い⇄株主不在/累進課税/資産課税
 - ⇄持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
 - ・入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 3) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を
 - ・小中学校:学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
 - ・高校:入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
 - ・大学:入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開
- 4) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

大学改革シナリオ
～社会経済生産
性本部～@竹橋

大学と社会の相互関係

——大学に期待される教育機能——

2003. 10. 27

橋爪大三郎

(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『その先の日本国へ』（勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』（堤清二氏との共編著・勁草書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『研究開国』（共編著・富士通ブックス）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著・平凡社新書）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』（PHP新書）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/hashizm/>

□1□ 大学は日本の社会にどう根付いてきたか

1) 教育……現世代から次世代への贈与＝投資

- ・産業社会では、勤労者を拡大再生産し、付加価値を生み出す能力ある人材を育成
- ・近代社会～家業の消滅・都市化・サラリーマン化～次世代の産業構造を先取り

2) 明治～戦前の教育システム

- ・農業社会→工業社会への転換を支える 初等義務教育の普及 → 普通選挙法1925
- ・官僚養成(←藩閥政治) 専門職業人養成 多元的で分散的なシステム

3) 戦後の受験教育システム

- ・大学進学率の上昇⇒大学の大衆化 すべての国民が進学競争に巻き込まれる
- ・学校外教育(塾・予備校)の隆盛⇒教育コストの上昇 親の所得が進学に影響
- ・大学進学者の階層固定化 入試が就職のスクリーニング機能 若者の無気力

□2□ 「選択・責任・連帯の教育改革」(社会経済生産性本部 1999)

1) 学校の機能回復をめざして

- ・日本の教育システムには誰も満足していない でも変わらない 親・生徒・教師の不満
- ・教師は「連帯」を見失っている 現場に権限なし 学力を身につけるのは人権問題

2) 小中学校の改革

☆学区制の廃止(＝学校選択制) 選択→競争的環境 公設民営を目標に

☆校長に権限を 人事権・経営権・予算権 教員の異動の自由 学習指導要領を廃止
学校理事会が、校長を監督(公募・評価・任免) 教育委員会の権限をなくす

3) 高等学校の改革

☆高校入試を廃止する →書類選考 職業高校の廃止→コース選択制 学生の自立支援

☆高検(高等学校学力検定試験)の導入 コア学科の外部統一試験を卒業資格に

学習困難校を再生させよう それには目標を与え、モラルを再構築すること

4) 大学の改革

☆大学入試の廃止～学生定員の廃止 高検(基礎資格)+他の資格 キックアウト

☆奨学ローン・奨学金の充実 300万人×300万円＝9兆円の減税効果

学生のコスト意識・勉学意欲 学費を値上げし、大学ごとに奨学金で還元せよ

□3□ 大学教育のコストを誰が負担するか

1) 教育のコスト ……受益者が現在世代

- ・初等中等教育：社会の構成員全員が受ける教育 ←社会(税金)が負担すべき
(ただし、私立学校のエデュコストは、生徒(の親)が負担すべき)
- ・大学教育：社会の一部分の人のびとが受ける教育 ←受益者(学生)が負担すべき
この点で、国公立と私立の差はなくなることが望ましい

2) 研究のコスト ……受益者が将来世代

- ・研究費：将来世代が受益者となる(特に基礎研究) ←社会(税金)が負担すべき
競争的・分権的な環境をつくるため、資金を複数の配分元に分けて競争させるべき
(ただし、すぐに資金が回収できる見込みの応用研究は、企業が負担すべき)
- ・研究の資源はなるべく、集中させるべき そのために、研究者の移動を自由に

3) 競争的な環境づくり

- ・大学の参入・退出の自由 大学設置規準はいらない 外国の大学に門戸を開け
- ・大学の買収や経営陣の交替、教授陣の入れ換えが自由にできるように

□4□ 横浜市立大学の改革案

1) 横浜市立大学…1140億円余の負債 中田宏市長の市政改革(横浜市の負債2兆円) 2002.10～2003.2「市立大学の今後のあり方を考える懇談会」座長：橋爪

2) 「あり方懇」答申 2003年2月27日

(<http://www.yokohama-cu.ac.jp/arikata/toushin.pdf> に答申全文あり)

☆「プラクティカルなりベラルアーツ・カレッジ」……明確なミッション・ステートメントを

☆商・国際文化・理の三学部をひとつに統合 博士課程は分野を精選

☆徹底した合理化と経営改善を、さもなければ廃校も選択肢

3) 市立大学改革推進・プラン策定委員会(プロジェクトR)答申 2003年10月22日評議会決定

10月29日に、横浜市改革推進本部で報告され、市長に報告の運び ⇒市議会へ

☆理事長(経営)/学長(教育研究)の分離 経営責任をはっきりさせる

☆人事委員会の独立 透明で説明可能な人事

☆任期制・年俸制を全教員に実施

教員の流動性と競争的環境

4) 市民のための大学

・市内(県内)の高校からの推薦入学枠を拡大

・市民に大学の講義を開放 バウチャー クーポン 大学の施設を開放

□5□ 社会のなかの大学

1) 有用な卒業生を送り出すこと

- ・明確なミッション～教育内容を不断に見直し～卒業時の学力保証～再教育機会の提供
たとえば、職業大学院、海外の大学との合同大学院、インターンシップ、……

2) 有用な情報を提供すること

- ・委託研究、共同研究、情報公開、図書館の公開、……

3) 産官学の人材を流動化させること

- ・任期制・年俸制、兼任・併任、給与年金の一元化、……

4) 国際化戦略をもつこと

- ・留学生の受け入れ、日本人学生の送り出し、外国大学を日本に、日本の大学を海外に
たとえば、東京工業大学の国際室ポリシーペーパー(2003.7)

5) 社会にマイナスの影響を与えないこと

- ・大学入試を廃止し、合理的な入学システムに改める →大学間競争 →高校と連携

徳間書店・路の会
@世界貿易センター39F
東京會館サバルーム

アメリカ論

2003.10.30
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(勁草書房)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカとは何だろう

1) 旧大陸と新大陸

- ・文明は旧大陸に興る 人口稠密、歴史と伝統の蓄積、諸文明の並立と対立
- ・産業文明は新旧大陸にまたがる 新大陸への移民、豊富な資源、資本と技術の移転
- ・新大陸は、旧大陸の干渉を嫌い、孤立を好み、旧大陸の統一を嫌う(新大陸の戦略)

2) 新大陸はなぜ覇権を握るのか

- ・新大陸の優位 一人当たり資源が豊富、伝統が稀薄、高い生産性、全世界が市場
- ・新大陸は侵略されない →外交のフリーハンド →中立志向、国益の追求
- ・新大陸の軍事的優位 旧大陸は戦争を反復 新大陸は巨大産業国家に 最強の軍隊

□2□ 宗教国家アメリカ

1) ピューリタンとバイブル・コモンウェルス

- ・キリスト教は、伝統社会を否定し一様化する一神教 ピューリタンは厳格個人主義
- ・約束の地 ピューリタンは、旧大陸の移民が新大陸を占有することを正当化
- ・信仰の自由(タウンの自治)→政治的自由(政教分離)→自由=価値=建国の理念

2) 独立戦争

- ・アメリカは新大陸の各州の政治的統一を最重視 植民地:相互に安全→独立→危機
- ・州には離脱の規定がない cfソビエト連邦 →アメリカ的価値(自由)への献身
- ・アメリカの正統性 王の特許状→自治政府→独立戦争(王からの独立=自己統治)

□3□ トクヴィルのみたアメリカ

1) デモクラシー

- ・均分相続~貴族制は不可能~勤勉の必要~機会の平等 人民の自己決定
- ・選挙~任期~権力が集中しても下野する~統治者の裁量が大きい~官僚が少数

- ・言論の自由~無数の新聞・雑誌・出版~集会・結社の自由

2) アソシエーション

- ・人為的な組織 特定の目的で結社をつくる 目的が実現するよう合理的運営
- ・コミュニティ(地域社会、民族集団)~アソシエーション(中間団体)~政治的国家

3) 奴隷制

- ・原住民/奴隷は人権を奪われている 奴隷制は効率が悪い 奴隷解放は差別を強化 奴隷問題は解決がむずかしいだろう

□4□ 20世紀という時代

1) アメリカとソ連

- ・どちらも宗教的人造国家 旧大陸・ヨーロッパを西へ…アメリカ、東へ…ソ連 自由と解放の理念 →エジプト記:隷属をのがれ約束の地へ モーゼ=マルクス
- ・アメリカはソ連を敵対視 理念的理由~本当の自由はどちら? 国益~旧大陸の危機

2) 世界大戦と世界戦略

- ・孤立主義→ナチズム ナチスを倒すのにソ連と同盟 ソ連を倒すのに中国と同盟
- ・アメリカは、覇権に対する挑戦を許さない →中国との対立が厳しいものになる?
- ・日本の対米戦争 非合理的攻撃なので、宗教的行為(天皇制)と理解された

3) 共産主義に対する戦い

- ・対ソ連戦争が核兵器によって不可能に →冷戦(不本意な、総力戦の凍結状態)
- ・「恐怖の均衡は不道德」byレーガン スターウォーズ計画…新大陸の安全保障を回復
- ・日本の非軍事化と経済的繁栄 ←対共産主義戦略、アメリカの国益に即する

□5□ グローバル化と未来

1) ポスト冷戦世界とアメリカ

- ・冷戦の半世紀、アメリカは「共産主義との戦い」のためコストを払ってきた →勝利 共産主義が敵である理由……1)無神論である、2)自由・所有権を否定する
- ・自由の基礎は まず、身体。次に、財産。 ←人はどこまで自由か/リベリズム論争 機会の平等~結果の不平等→相続の平等、寄付の奨励、財団文化 →納税への抵抗

2) 「文明の衝突」なのか

- ・アメリカの正統性 …旧大陸の文明に対する「超文明」 →実際は資源浪費の圧迫者
- ・旧大陸の試み(ナチ全体主義、日本天皇制、ソ連共産主義、イスラム革命)はすべて誤り(文明とは認めない) 単独でアメリカに挑戦する試みは必ず失敗する
- ・グローバリゼーション …各国が独立(自己責任)を果たしつつアメリカ中心の市場統合が進むプロセス 英語の優位 情報の優位 アメリカ憧憬と反感が同居

3) アメリカを理解すれば日本がわかる

- ・アメリカの対日政策は、世界戦略のなかで決まっている ∴戦略が変われば変化する
- ・戦略 …1)なるべく長く覇権を維持する、2)覇権を脅かす国を叩く、3)国際社会のルールを自国に有利に解釈、4)原則で一貫するより状況に応じて柔軟に対応
- ・アメリカは旧大陸に対する優位の根拠を「正しさ」(価値観)に置いている
アメリカに誤りを理解させるのは至難のわざ
- ・日本の戦略 …1)なるべく長くアメリカの覇権を維持させる、2)そのいっぽう後継システムを「アメリカを含む連合」としてつくれるように準備を進める

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』（勁草書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『自分を活かす思想／社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』（PHP新書）、『寛容のレシビ』（グラスビー著、解説・NTT出版）、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』（共著・朝日新聞社）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書y）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカとは何なのか

1) 旧大陸と新大陸

- ・文明は旧大陸に興る 大河の流域～農耕適地～栽培植物～民族抗争～帝国
人口稠密、歴史と伝統の蓄積、諸文明の併存と対立 文明は互いに自己主張する
- ・産業文明は新旧大陸にまたがる 新大陸は移動に不便～空き地
産業は旧大陸に興る（文明の遺産） 産業文明は移動手段を擁する→文明の波及
移民～豊富な資源～資本と技術の移転～伝統の制約なしに理想的な発展をとげる
- ・新大陸は、旧大陸の干渉を嫌い、孤立を好み、旧大陸の統一を嫌う（新大陸の戦略）

2) 新大陸はなぜ覇権を握るのか

- ・新大陸の優位 一人当たり資源が豊富、伝統が稀薄、高い生産性、全世界が市場
- ・新大陸は侵略されない →外交のフリーハンド →中立志向、国益の追求
- ・新大陸の軍事的優位 旧大陸は戦争を反復 新大陸は巨大産業国家に 最強の軍隊

□2□ 宗教国家アメリカ

1) ピューリタンとバイブル・コモンウェルス

- ・キリスト教：伝統社会を否定する一神教 カトリック：共同体の慣行を尊重
ピューリタニズム：厳格個人主義 神は絶対→人は救済に関与できない
カトリックは離婚禁止 改革派は離婚できる→愛が正当化→家族は人為的、核家族
- ・約束の地 ピューリタンは、旧大陸の移民が新大陸を占有することを正当化
旧約聖書（出エジプト記、ヨシュア記…） イスラエル人のアメリカ

2) ピューリタニズムの世俗化

- ・半途契約 halfway covenant：熱心な信徒の不信仰な子どもも共同体のメンバーに
→行為の外見（良好な夫婦関係、勤勉、経済的成功…）が重要に 小家族経営
- ・経済倫理 Time is money. Honesty is the best policy. … が全体社会を支配

3) 政教分離とアメリカ

- ・信仰の自由（タウンの自治）→政治的自由（政教分離）→自由＝価値＝建国の理念
- ・法律～コモンロー（イギリス法）：信仰と無関係 + 議会（自分たちの代表）の立法
法律は世俗の公共善のためにある
- ・モンキートライアル（進化論裁判） 公教育では宗教は教えない→信仰と進化論は両立しない→進化論は信仰の一種→進化論を公教育で教えるはいけない→訴訟

□3□ 独立戦争のアメリカ

1) 合州国の正統性

- ・王の大権(prerogative)→特許状(charter)→権利主体(freeman)→自治政府→独立
王からの独立＝自己統治 人民個々人が作り出した権力のみが正当との信念
- ・アメリカは各州の政治的統一を最重視 植民地：相互に安全→独立後は潜在的脅威
州には離脱の規定がない cfソビエト連邦 →アメリカ的価値（自由）への献身

2) フランス革命とアメリカ革命

- ・アメリカ 人民の武装(minuteman)→市民軍（+政府軍、フランス軍）→独立
フランス 三部会（+暴動）→国民公会→憲法制定・国王処刑→共和国→国民軍
- ・市民革命としては、アメリカのほうが純粋形に近い フランス革命のロシア革命

3) 南北戦争のアメリカ

- ・独立戦争vs内乱(Civil War) 鉄道を使った近代戦 50万人の死者 第二の建国
南北戦争後、アメリカ合州国の主権は万全になった 大統領の軍事指揮権

□4□ 社会科学者のアメリカ

1) パーソンズ (Talcott Parsons 1902-1979)

- ・生殖家族(family of procreation)と定位家族(family of orientation)
親にとっての家族（選択～人為）／子どもにとっての家族（所与～自然）の二重性
- ・ホッブズの秩序の問題：人間は自由→ガム・コンフィジェンシー→規範が共有されていれば安定
自由な人びとに規範を与えるのが、社会システム（政治・経済・文化の複合秩序）
- ・社会化(socialization)：規範を持たない人間を社会に適応させる ⇄ 学生の批判

2) サムエルソン (Paul Anthony Samuelson 1915-19)

- ・サムエルソンの動学的安定条件：市場で模索価格が均衡に収束する条件
自由な個人の行動の結果がどう秩序をうむかというモチーフは、パーソンズと同じ
- ・新古典派…ミクロ、マクロ経済学を統合する単純な数理モデル →自由経済の優位
ミクロ：家計(household)は効用極大、企業(firm)は利潤極大をはかって行動
マクロ：国民経済＝Σ家計＋Σ企業＋政府（財政支出） 所得～消費～貯蓄～投資
新古典派経済学は、アメリカ社会のミニチュアモデル →ほかの社会に有効か？

3) リースマン (David Riesman 1909-)

- ・『孤独な群衆』(Lonely Crowd 1950)：アメリカの大衆社会状況を活写 人間類型
伝統志向型 伝統社会の人間～所与の価値に準拠して自己形成 …旧大陸
内部志向型 古典的アメリカ人～個人の価値観に忠実 …ピューリタンの倫理
他人志向型 other-directed type 大衆社会～価値規範の空洞化 …50年代の空虚
⇄ 社会心理学、消費社会論、行動科学 ～人間を「操作」する試み ～システムの優位

□5□ トクヴィルのみたアメリカ(1)

● Alexis de Tocqueville 1805-1859 フランスの政治思想家、社会学者、政治家。1831年～1832年にかけてアメリカ各地を旅行。De la democratie en Amerique (1835/1840) 邦訳『アメリカの民主政治』(上)(中)(下) 講談社学術文庫 を出版。

1) 平等

《アメリカに滞在中…地位の平等ほど私の目をひいたものはなかった》(上:21)

- ・相続法: 均分相続～貴族制は不可能～勤勉の必要～機会の平等 人民の自己決定
- 《私はアメリカで、アメリカ以上のものを見た》(上:40) 辞めた公人は普通の市民
- 《政治界に平等を支配させるには二つの方式がある…各市民に権利を与える方式…権利を与えない方式》(上:113) 平等は、専制的権力とも適合的

2) 権力

《権力は…土地を買い…人民を統治するひとりの人間…会社…に集中》(上:78)

⇒自治を行なう権利 自由に好都合な植民形式: ニューイングランドでのみ実行された

- ・選挙～任期～権力が集中しても下野する～統治者の裁量が大きい～官僚が少数

《権力自体の使命は…自由を保護すること》(上:85)

- ・言論の自由～無数の新聞・雑誌・出版～集会・結社の自由
- ・政教分離 《牧師…が全く公職についていないのを知って驚いた》(中:262)～誇り

3) デモクラシー

《州法は王制であるが、共同体では…共和制が…生きてはたらいっている。》(上:83)

《共同体には…議会…はない》(上:127) ⇒カバティン 多くの選挙～多くの行政職

- ・○政治的中央集権 ×行政的中央集権 「:179)

《法律を作り…執行する権利を与えられている多数者ほど…専制的君主は…ない》(中)

⇒《多数者は永続的な自己崇拜といううぬぼれの中で生きている》(中:183)

- ・多数者の専制→少数者の絶望→暴力に訴える→無政府状態 : トクヴィルの予測

□6□ トクヴィルのみたアメリカ(2)

1) アソシエーション

《世界中でアメリカは団体をもっともよく利用している国》(上:45) association

- ・人為的な組織 特定の目的で結社をつくる 目的が実現するよう合理的運営
- ・コミュニティ(地域社会、民族集団)～アソシエーション(中間団体)～政治的国家
教会、株式会社、クラブ、財団、NGO、大学、同窓会、病院、慈善団体、…

2) 奴隷制

- ・《神は…短期間の用益権だけを与えた》(上:58)～占有 ↔ 農業～所有

- ・原住民/奴隷は人権を奪われている 奴隷制は効率が悪い 奴隷解放は差別を強化
奴隷問題は解決がむずかしいだろう

《ニグロ…偏見は…奴隷でなくなるに比例して増加》(中:359) 奴隷解放→黒人隔離

3) 外交

《アメリカは隣国…をもっていない。…大戦争も…征服も経験…ない。》(中:225)

《アメリカの連合体は闘う相手としての敵をもっていない。》(中:282)

- ・全国民的なもの: 軍事と外交 アメリカ本土は安全であるはず

真珠湾(アメリカに対する先制攻撃)→世界に関与 9.11(テロ)→ホームランドセキュリティ

□7□ アメリカン・カルチャー

1) アメリカにしかない文化

- ・野球/アメフト/バスケット…アメリカで発明 既存のスポーツでは一部の移民が有利
- ・星条旗と憲法…忠誠の対象 神の代理物 自由: 人が人を支配してはいけない
- ・ハンバーグ/コーラ/ジーンズ どのエスニックグループの人びとも共通に享受できる
手軽; 便利; 年齢・性別・場所・時間を問わない; 階層に無関係

2) エンターテインメント

- ・享楽を避ける傾向(ドライヴン)→享楽街(ラスベガス) ハリウッドに映画産業～ユダヤ系
- ・ジャズ 白人の楽器→黒人の演奏→白人も享受 クラシック(旧大陸)でない
- ・ミュージカル 点在する農村→巡回公演(ボードビル、ショーボート)→定着 オペラでない

3) アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ

- ・自動車 点在する農村→馬車→自動車 ガソリンが安い/工業/道が広い
- ・郊外型住宅 都市→電車・自動車で都心へ移動(擬似田園生活)→資源浪費文明
冷蔵庫/洗濯機/スチーマー→エアコンディショナー/電話/システムキッチン/個室/シャワー/トイレ/…
- ・消費文化 貴族や身分が存在しない→消費が階層を表示→広告・ブランド…
消費者=市民の主権

□8□ サリンジャーのアメリカ

● Jerome David Salinger 1919- アメリカの作家。裕福なユダヤ人の父とカトリックの母の間に生まれる。NYで成長し、プレップスクールを退学になる。短編小説が認められるも志願して入隊、ノルマンディ上陸作戦など激戦を経て神経衰弱となり入院。1951年、The Catcher in the Rye を出版。やがて田舎の森にこもり、隠遁生活に入る。

1) 『ライ麦畑でつかまえて』

- ・主人公ホルデン・コールフィールド 兄DB(戦争帰りの作家、不在)、妹フィビー、弟アー(死亡)
- ・書かれていないこと ①ユダヤ出自(両親の信仰、友人の名) ②戦争(DBの参戦)
DB(不在)→16歳の架空の弟→you(死んだ弟?)への語り 小説=治療行為
- ・時間的遡行、空間的退行 《小川が流れたりしている…土地に二人で住み…》(218)
サリンジャー本人が、小説をコピーし、小説に閉じこもる cf G. Gould

2) 俗物・対・イノセント

- ・神の不在(戦場に神はいない) →アメリカ文明を個人が支えきれぬか
サリンジャー: 退学→×都市専門職、×家業 インチキvs価値(イノセント) 価値は説明不能
- ・キッファー・イン・ザ・ライ: イノセントの側に立ち「孤立」人生を選択 スピード、マボマ、テロリスト
アメリカに魅惑されながらアメリカを拒否する小説 ⇒グロバライゼーションと共に世界の心象風景へ

3) 80年代の保守回帰

- ・家庭の価値 family value ×ドラッグ ×セックス 個人間の紐帯 cfクリントン、ブッシュ
- ・宗教への回帰 キリスト教原理主義 テレバングリスト 草の根保守 国内での孤立的傾向
- ・納税者の反乱 連邦政府の弱者救済・福祉政策→重税路線に反対 地域社会再建
⇒単独行動主義への下地 旧大陸の諸国家・諸文明と妥協する必要がどこにある?

サリンジャー本人の孤立的傾向と、並行する部分もあるとみえるのは皮肉

* 村上春樹・柴田元幸 2003 『サリンジャー戦記 翻訳夜話2』文春新書

□9□ 20世紀という時代

1) アメリカとソ連

- ・どちらも宗教的人造国家 旧大陸・ヨーロッパを西へ…アメリカ、東へ…ソ連
自由と解放の理念 ⇨出エジプト記：隷属をのがれ約束の地へ モーゼ⇨マルクス
- ・アメリカはソ連を敵対視 理念的な理由～本当の自由はどちら？ 国益～旧大陸の危機

2) 世界大戦と世界戦略

- ・孤立主義⇨プラグマティズム ナチスを倒すのにソ連と同盟 ソ連を倒すのに中国と同盟
- ・アメリカは、覇権に対する挑戦を許さない ⇨中国との対立が厳しいものになる？
- ・日本の対米戦争 非合理的な攻撃なので、宗教的行為（天皇制）と理解された

3) 共産主義に対する戦い

- ・対ソ連戦争が核兵器によって不可能に ⇨冷戦（不本意な、総力戦の凍結状態）
- ・「恐怖の均衡は不道德」byレーガン スターウォーズ計画…新大陸の安全保障を回復
- ・日本の非軍事化と経済的繁栄 ⇨対共産主義戦略、アメリカの国益に即する

□10□ 日本とアメリカ

1) なぜアメリカは日本を開国させたのか

- ・アメリカのアジア戦略 列強の対立併存はよい ⇨対中国：門戸開放政策
日本の独立と近代化を支持 ロシアの進出を警戒 国益追求（フィリピン、中国）
- ・日本と中国の一体化⇨強い東アジアは困る 勢力均衡⇨ヨーロッパの反映
日露戦争の講和仲介～日本の拡大を牽制 日英同盟 ⇨第一次大戦後、同盟空洞化

2) なぜアメリカと日本は衝突したのか

- ・排日移民法…アメリカの国内問題 ⇨アメリカの「理念」に対する懐疑～日本ナショナリズム
- ・満州共同開発の提案→日本が拒絶 満州事変（ソ連が仮想敵） 満州⇨小アメリカ
- ・西安事件（張学良が仲介し蒋介石と周恩来が抗日を優先し協定結ぶ）→日華事変1937
単独で日本に勝てない中国は、日本占領⇨欧米利権否定を演出、米英の支援を期待
- ・第二次大戦→対日開戦時期を遅らせつつ経済封鎖、建艦計画 ⇨日本の先制攻撃

3) 戦後日米関係とは何だったか

- ・日米戦争は価値観の相違（軍国主義・全体主義）から →日本を「民主主義」に
日本占領は、①間接統治（官僚温存）、②天皇温存 農地解放～自民党政権の基盤
- ・冷戦→日本再軍備・日米安保条約 日本／中国・ソ連を分断しつつ日本を支援
- ・日中関係（従属変数）⇨日米関係⇨米中関係（独立変数） アメリカは日本を対中カードに
日本の「独自意思決定」を許容せず（⇨属国論） 保守の二元性（親米vs反米）

□11□ ネオコンのアメリカ

1) リベラリズムと保守主義

- ・アメリカの政党は、派閥みたい 強力な議会が大統領を牽制 議員の自由投票
ロビー：立法過程に影響を与える活動 特殊利益・シンクタンク 影の薄い大統領
- ・連邦主義／地方分権～大きな政府／小さな政府～民主党／共和党 超党派biparty

- ・保守主義…宗教（含・原理主義）、地方分権 リベラリズム…公民権、福祉

2) 強い大統領

- ・もともと軍事指揮権は大統領に cf宣戦布告は議会の権限
- ・FDR（フランクリン・ルーズベルト） 恐慌⇨伝説の百日⇨立法に関与⇨大統領府
- ・L・B・ジョンソン 補佐官の競争的助言システム 政策立案能力
- ・R・ニクソン キッシンジャー補佐官→国務長官 国務省・国防総省の頭越し外交
- ・R・レーガン 強いホワイトハウス・スタッフ+強い閣僚 をめざす

3) ネオコンサバティズム

- ・民主党系知識人の保守転向 ポスト冷戦で、保守主義が現実的な選択肢に
- ・ヨーロッパ地位低下 →単独行動主義 unilateralism →国益と世界秩序維持の合体
保守主義と違い、明確な世界戦略をもつ 突出した軍事力でアメリカの国益を確保

□12□ グローバル化と未来

1) ポスト冷戦世界とアメリカ

- ・冷戦の半世紀、アメリカは「共産主義との戦い」のためコストを払ってきた ⇨勝利
共産主義が敵である理由……1) 無神論である、2) 自由・所有権を否定する
- ・自由の基礎は まず、身体。次に、財産。 ←人はどこまで自由か／リベラリズム論争
機会の平等⇨結果の不平等→相続の平等、寄付の奨励、財団文化 →納税への抵抗

2) 「文明の衝突」なのか

- ・アメリカの正統性 …旧大陸の文明に対する「超文明」 →実際は資源浪費の圧迫者
- ・旧大陸の試み（ナチ全体主義、日本天皇制、ソ連共産主義、イスラム革命）はすべて
誤り（文明とは認めない） 単独でアメリカに挑戦する試みは必ず失敗する
- ・グローバリゼーション …各国が独立（自己責任）を果たしつつアメリカ中心の市場
統合が進むプロセス 英語の優位 情報の優位 アメリカ憧憬と反感が同居

3) アメリカを理解すれば日本がわかる

- ・アメリカの対日政策は、世界戦略のなかで決まっている ∴戦略が変われば変化する
- ・戦略 …1) なるべく長く覇権を維持する、2) 覇権を脅かす国を叩く、3) 国際社会のルールを自国に有利に解釈、4) 原則で一貫するより状況に応じて柔軟に対応
- ・アメリカは旧大陸に対する優位の根拠を「正しさ」（価値観）に置いている
アメリカに誤りを理解させるのは至難のわざ
- ・日本の戦略 …1) なるべく長くアメリカの覇権を維持させる、2) そのいっぽう後
継システムを「アメリカを含む連合」としてつくれるように準備を進める

* 副島隆彦 1999 『世界覇権国アメリカを動かす政治家と知識人たち』講談社+α文庫

森村進 2001 『自由はどこまで可能か——リベタリアニズム入門』講談社現代新書

広瀬隆 2003 『アメリカの保守本流』集英社新書

三輪裕範 2003 『アメリカのパワーエリート』ちくま新書

ロバート・ケーガン 2003 『ネオコンの論理——アメリカ新保守主義の世界戦略』光文社